WinBook
Quattro/R

R5P150MX
R5P133MT

ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

WinBook Quattro/R
R5P150MX
R5P133MT

ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Quattro/Rをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ソーテックWinBook Quattro/Rは、高精細の800×600ドットワイド画面に加え、CD-ROMドライブやステレオスピーカ、マイクなどのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトなA4サイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を6つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Quattro/Rを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

Windows®95の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読み下さい。 この中には、WinBook Quattro/Rを使用される上で重要な情報が記述されています。 特に、Windows®95を再インストールされる場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりにドライバー等のインストールを行なわないとWinBook Quattro/Rの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

株式会社ソーテック

本製品を正しくお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。左図の場合は「分解禁止」という意味です。



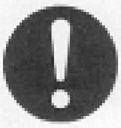
●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜け」という意味です。

⚠警告



水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



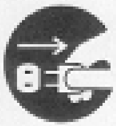
●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。



●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。



●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。



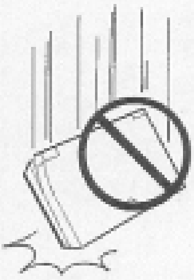
電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

⚠ 注意

電源プラグを抜く

● ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。



● 落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。
故障による火災・感電の原因となります。

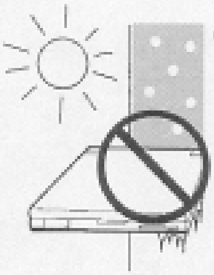


● ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

● 本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。

電源プラグを抜く

● 使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。



● 熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10~30℃)/使用周囲湿度(20~80%)を超える範囲では使用・保存しないでください。

● 長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。(発熱することは異常ではありません。)

● グライドポイントの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。

● グライドポイントは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

⚠ 警告

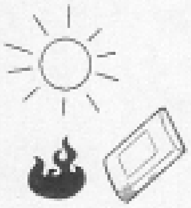
●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。発熱・発火・破裂の原因になります。



●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

●バッテリ充電時に、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂の恐れがあります。

●バッテリは、危険を防止するための保護装置が組み込まれているので、分解·改造などしないでください。保護装置が壊れ、発熱·発火·破裂の恐れがあります。



●バッテリは火気の近くや直射日光の当たる場所で使用、放置、充電しないでください。危険防止の保護回路が壊れ、発熱・発火の恐れがあります。

●バッテリから液が漏れて、液が眼に入ったときは、障害を起こす恐れがあるので、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

●バッテリが漏液したり、異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火·破裂のおそれがあります。

⚠注意



●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と−の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。

●バッテリを水や、海水につけたり、濡らさないでください。バッテリの破損や性能・寿命を低下させる原因となります。

●バッテリを使う前に、サビ・異臭・発熱・その他異常と思われるときは、使用しないで、弊社テクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●バッテリから漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合、皮膚がかぶれる恐れがあるので、すぐにきれいな水で洗ってください。

●バッテリを小児が使う場合、保護者が取扱説明書の内容を教えてください。また、使用途中でも、取扱説明書のとおり使用しているか確認してください。

●バッテリは乳幼児の手の届かぬ所へ保管し、使用するときも、乳幼児が機器からバッテリを取り出さぬよう注意してください。

●使用済のバッテリは、端子にテープなどを貼り、絶縁して廃棄してください。

保証について

保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証期間後の修理については、お買い求めいただいた販売店までご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有償で修理いたします。
保証書は、お買いあげいただいた販売店で、所定事項を記入のうえお受け取りになり、大切に保管してください。

⚠注意 本製品を、分解、改造された場合、保証期間であっても無償保修の対象にはなりません。また、修理対応もできません。

お願い



●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。



●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

●本製品にインストールされているWindows®95、および各種ユーティリティソフト が収録されているフロッピーディスクは大切に保存してください。
●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

お手入れについて



●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10～30℃)の環境に放置した後、お使いください。

Contents

第1章 スタートアップガイド

第2章　キーボード操作になれよう

第3章 マルチメディアを楽しもう

第4章 システムを拡張する

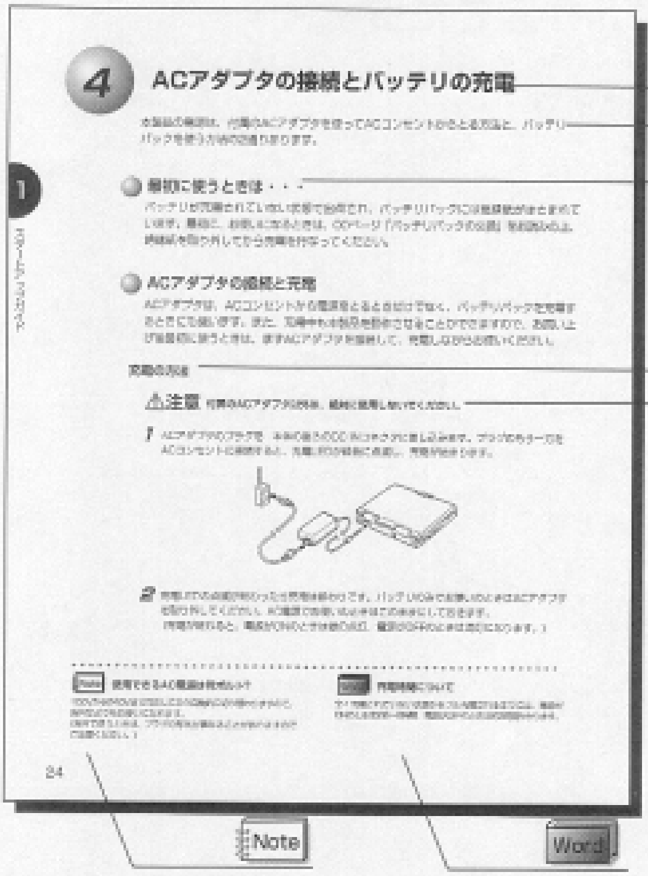
第5章 システムの設定を変える

第6章 トラブルが起きたら・・・

Appendix

ユーザーズガイドの読みかた

各ページの構成は、次のようになっています。



大見出し

この項目の概要

中見出し

小見出し

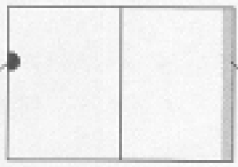
⚠注意

お使いになるときや操作しているときに、特に注意していただきたいことです。

補足的な説明や知っておくと便利なことです。

本文中に出てくる用語の説明です。

インデックスについて



チャプターインデックス

各章ごとに付けられています。

クイックインデックス

開いているページの大見出しです。左右両ページに大見出しがあるときは2つ入っています。

チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく6つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindows®95を立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。

スタートアップガイド 1

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードになれていない方は必ずお読みください。

キーボード操作になれよう 2

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。

マルチメディアを楽しもう 3

PCカードの使いかた、メモリやハードディスクを交換する方法、および外部周辺機器の接続方法について説明しています。

システムを拡張する 4

システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。

システムの設定を変える 5

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

トラブルが起きたら・・・ 6

再インストールの方法や、本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

Appendix

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作になれよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第6章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、99ページの「第6章 トラブルが起きたら…」のページをお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。
- ・お客様のお名前、連絡先
- ・本製品を購入された販売店、代理店の名称
- ・本製品のシリアル番号または製造番号（本製品底面のラベルに印刷してあります）
- ・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　045-224-1125
FAX番号　045-224-1126
E-mail　support@sotec.co.jp
毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後5時
（祝祭日および弊社指定休業日を除きます。）

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包(梱包箱、パッキン)にてご返送ください。

〒220-81　神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1
株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

⚠注意　ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

第1章

スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindows®95を立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときには必ずお読みください。

1 WinBook Quattro/Rの機能を知る

WinBook Quattro/Rの主な機能や特長を紹介します。

●MMXペンティアム150MHz(R5P150MX)
MMXペンティアム133MHz(R5P133MT)

●A4サイズ、薄さ52mm、3.1Kg

●16MB標準メモリー
最大80MBまで増設可能

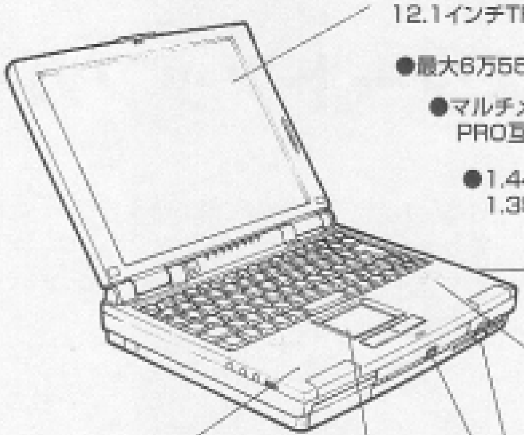
●800×600ドットのSVGA対応

●12.1インチDSTNカラー液晶ディスプレイ採用(R5P150MX)
12.1インチTFTカラー液晶ディスプレイ採用(R5P133MT)

●最大6万5536色表示が可能

●マルチメディア対応のサウンドブラスタPRO互換サウンド機能搭載

●1.44GB着脱式大容量HDDを標準装備(R5P150MX)
1.35GB(R5P133MT)



●PCMCIAカードスロット
TYPEⅡ×1スロット、
TYPEⅢ×1スロットを標準装備
（ただし2枚同時装着は不可）

●ステレオスピーカ

●3モード3.5インチFDDを標準装備

●平均10倍速CD-ROMドライブユニット標準装備

●グライドポイント標準装備

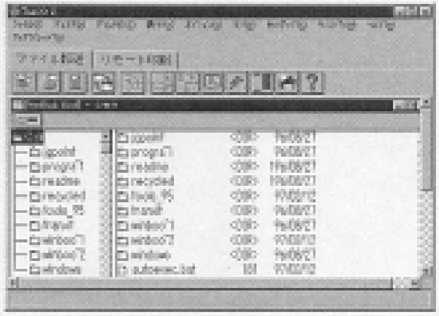
●内蔵マイク

●Windows®95をプレインストール



●インターネットエクスプローラを
プレインストール

●TranXit2をプレインストール

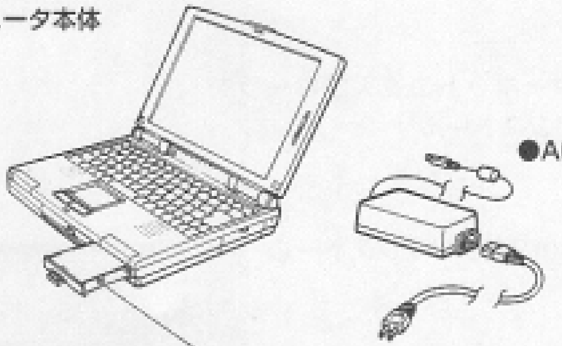


2 梱包の内容を確認する

ソーテックWinBook Quattro/Rには、本体の他に次のような付属品とソフトウェアが含まれています。パッケージを開けたら、不足品がないかどうか確認してください。

ハードウェアと付属品

●コンピュータ本体

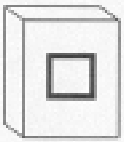


●ACアダプタ

●ACコード

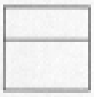
●ハードディスクドライブ
（本体に装着されています。）

●Windows®95 パッケージ



- Windows95マニュアル
- Registration Card
- ディスクラベル
- CD-ROM

●汎用ディスクラベル



各種ドライバのバックアップ用にお使いください。

●バッテリーパック

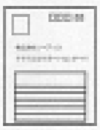


（出荷時には、本体に装着されていません。）

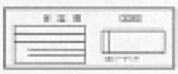
●WinBook Quattro/R ユーザーズガイド(本書です。)



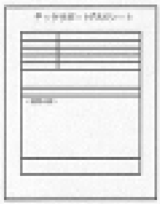
●ユーザ登録カード



●保証書



●テックサポート FAXシート



インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。

●Microsoft Windows®95

米国マイクロソフト社が開発したコンピュータのオペレーティングシステムです。
同時に複数のアプリケーションを実行できる「プリエンティブマルチタスク環境」を実現するとともに、グラフィックを使ったインターフェース(GUI)を持ち、グライドポイントを使って簡単にコンピュータを操作することができます。
また、ハードウェアの追加などが簡単にできる「プラグ アンド プレイ」や、アプリケーション間の連携プレイを実現する「OLE2」、他のコンピュータとデータや機器を共有したり電子メールを送受信できる「ネットワーク」機能、ビデオやサウンドを再生できる「マルチメディア」機能など、数々の先進機能が搭載されています。
Windows®95の詳しい使いかたについては、付属のWindows®95のマニュアルをお読みください。

●インターネットエクスプローラ

米国マイクロソフト社が開発したWindows®95専用のWWW(World Wide Web)ブラウザです。インターネットセットアップウィザードを使用することで、インターネットとの接続に関する設定もほとんど自動的に行います。また、Windows®95と同じインタフェースを持っているので、ドラッグアンドドロップやショートカットといった簡単な操作で、インターネットの世界を楽しむことができます。
インターネットエクスプローラの詳しい使いかたについては、インターネットエクスプローラのヘルプをお読みください。

●TranXit 2

TranXit(トランジットと読む)は、IrDAポートやシリアルケーブルを使って、コンピュータ間でファイルのコピーや移動、削除などのファイル転送を行うWindows用ソフトウェアです。また、2台のコンピュータ間でファイルの同期をとったり、クリップボード内のデータを転送することもできます。IrDAポートを持つプリンタと通信することで、ケーブルで接続することなく印刷を指示することもできます。
TranXitの詳しい使いかたについては、TranXitのReadmeファイルをお読みください。

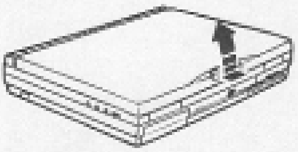
●MS-IME97

Windows95で日本語を入力するための日本語入力システムです。日本語入力システムは、キーボードから入力した文字を日本語に変換する機能を持っています。

3 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

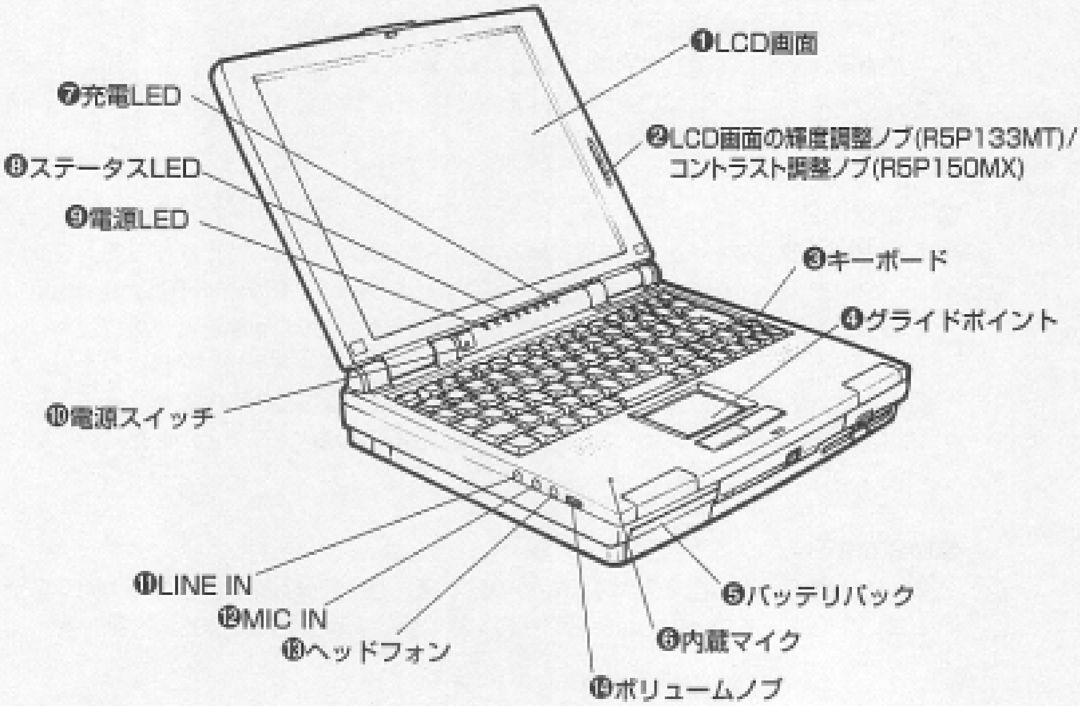


カバーを開けるときは、手前のノブを押して、見やすい角度まで開きます。



カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。ONのままカバーを閉じると、設定によりサスペンドまたはバックライトOFFに入ります。

前面・上面



❶LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 93ページ)

❷LCD画面の輝度調整ノブ(R5P133MT)/コントラスト調整ノブ(R5P150MX)

画面の明るさを調整します。(R5P150MXの場合、コントラストを調整します)

❸キーボード

キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。

❹グライドポイント

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 32ページ)

❺バッテリパック

バッテリパックを装着します。

❻内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 58ページ)

❼充電LED

充電の状態を表示します。(➔ 27ページ)

❽ステータスLED

動作状態を表示します。(➔ 25ページ)

❾電源LED

電源の状態を表示します。(➔ 27ページ)

❿電源スイッチ

電源をON/OFFすることができます。また、システムコンフィグレーションメニューの設定により、サスペンド状態にさせたり、サスペンド状態から動作状態に戻すことができます。(➔ 86ページ)

⓫LINE IN

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 59ページ)

⓬MIC IN

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 59ページ)

⓭ヘッドフォン

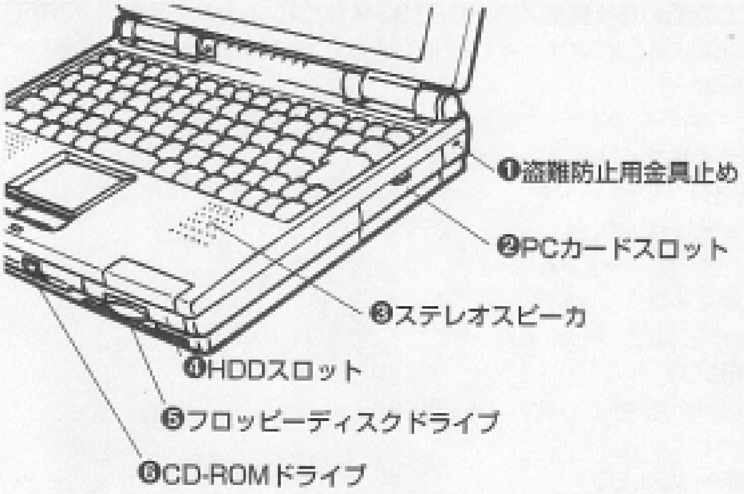
ヘッドフォンを接続します。音声はステレオで出力されます。

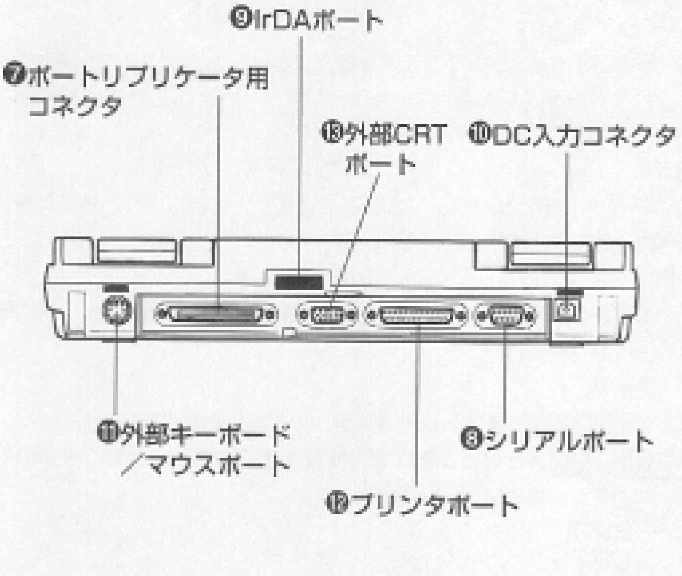
⚠注意 **突然大きな音が鳴り聴力障害を起こすおそれがありますので、音量には注意してください。**(➔ 59ページ)

⓮ボリュームノブ

音量を調整します。(➔ 43ページ)

右側面・後面





1
スタートアップガイド

❶盗難防止用金具止め

チェーンなどを取り付けます。

❷PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 68ページ)

❸ステレオスピーカ

ステレオスピーカです。(➔ 58ページ)

❹HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(➔ 75ページ)

⚠注意 **コンピュータが動作中はHDDカートリッジを取り出さないでください。**

❺フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクを挿入します。(➔ 44ページ)

❻CD-ROMドライブ

CD-ROMを挿入します。(➔ 61ページ)

❼ポートリプリケータ用コネクタ

別売のポートリプリケータを取り付けます。

❽シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM2」~「COM4」に変えることができます。(➔ 86ページ)

❾IrDAポート

赤外線を使った高速データ通信用のポートです。通常「COM2」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM1」~「COM4」に変えることができます。(➔ 80ページ)

❿DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 26ページ)

⓫外部キーボード/マウスポート

PS/2キーボードやマウスを接続することができます。(➔ 77ページ)

⓬プリンタポート

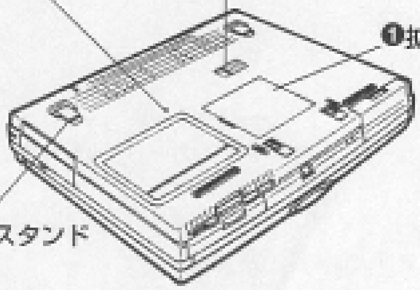
プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(➔ 86ページ)

⓭外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 78ページ)

1

底面



❶拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(➔ 73ページ)

❷バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。(➔ 28ページ)

⚠注意　ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❸スタンド

使いやすくなるよう、引き起こして本体に角度を持たせます。

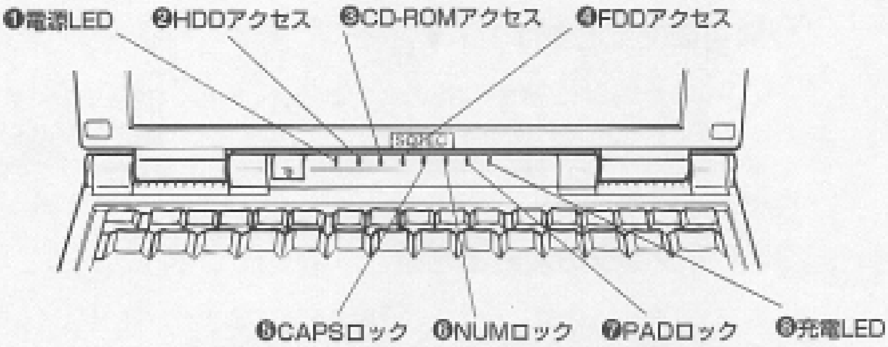
❹リセットボタン

コンピュータを再起動させます。(➔ 31ページ)

⚠注意　HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



❶電源LED	電源の状態を表示します。(➔ 27ページ)
❷HDDアクセス	ハードディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❸CD-ROMアクセス	CD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。
❹FDDアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❺CAPSロック	CpLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
❻NUMロック	NumLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)がFnキーと併用することで使えます。
❼PADロック	PadLKキーがロック状態のときに点灯します。さらにNumLkキーをロック状態にすることでニューメリックキーが使えます。
❽充電LED	充電の状態を表示します。(➔ 27ページ)

⚠注意　HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

最初に使うときは・・・

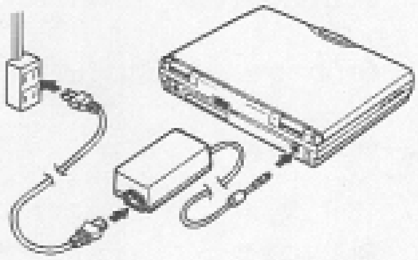
バッテリがフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷されています。バッテリパックは本体に装着されていません。最初に、お使いになるときは、26ページ「バッテリパックの交換」をお読みの上、充電を行なってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させせることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

⚠注意　**付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。**

1. ACアダプタのプラグを、本体の後ろのDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、充電LEDがオレンジ色に点灯し、充電が始まります。



2. 充電LEDが緑色になったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。
(充電が終わると、緑の点灯になります。)

Note　使用できるAC電源は何ボルト?

本製品に添付のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note　充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、3~4時間かかります。

充電LEDの意味

緑色の点灯	バッテリがフルに充電されている。
オレンジ色の点灯	バッテリが充電中の状態です。
消灯	ACアダプタが接続されていない時

電源LEDの意味

消灯	電源がOFFの状態です。
緑色の点灯	動作中で、バッテリに余裕がある状態です。
黄色の点灯	バッテリの残量が少なくなった(ローバッテリ)状態です。
黄色の点滅	バッテリの残量が残りわずかになった(ベリーローバッテリ状態です。)

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

バッテリ残量10%未満	▶	電源LEDが黄色に変化 1回だけビープ音が鳴る(CPUクロックスピードは自動的に遅くなります。)
バッテリ残量5%未満	▶	電源LEDが黄色の点滅を始めます。60秒おきにビープ音が鳴る
バッテリ残量がなくなった	▶	強制的にサスペンド状態に入る

警告が発せられたら・・・
- ●ACアダプタを接続して充電する
- ●充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意 **バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず26ページの説明にしたがって交換してください。**

⚠注意 **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。電源LEDが黄色に変化し、ビープ音が鳴ったらすぐにデータをセーブしてください。**

Note バッテリを節約するには・・・

- 使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
- パワーマネージメント機能を活かす。特にMaximum Battery Lifeを有効にしておくと効果的です。
- サスペンド機能を有効にする。
- なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

Note バックアップ電池について

本製品は、バッテリパックの他にバックアップ電池が内蔵されています。コンピュータ内部の時計やシステムコンフィグレーションなどの内容は、バックアップ電池によって保持されていますので、バッテリパックを取り外してもこれらの内容が消えることはありません。

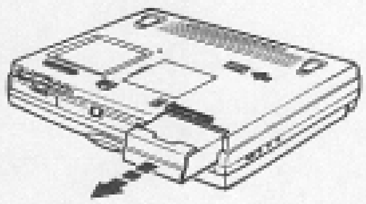
バッテリパックの交換

⚠注意　付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行なわないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。

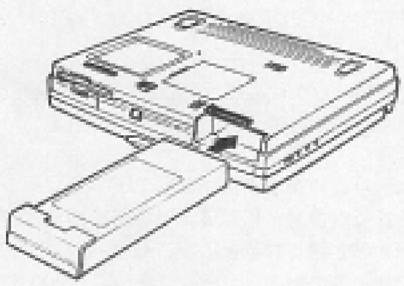
2ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時かACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯している事を確かめてください。(サスペンドの状態でも交換することができます。)

1 バッテリパック取り出しボタンを、図の矢印の方向にスライドさせながらバッテリパックを引き抜きます。



2 交換用のバッテリパックの端子面が奥に入るようにして、ゆっくりとスロットに差し込みます。ここで取り出しボタンがロックされているのを確認してください。



Word サスペンド

サスペンド機能とはアプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、サスペンド状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能はWindows®95のスタートボタンをクリックしたときに表示されるメニューから「サスペンド」を選ぶことで実行されます。(40ページ)

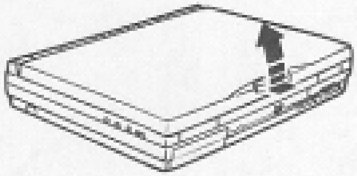
3 バッテリパックが確実に装着されているのを確認します。

5 電源のON/OFFとリセット

電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンドさせる場合は40ページをお読みの上、設定を変更してください。

電源のON/OFF

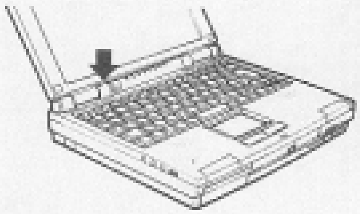
1 本体の前面にあるノブを押してカバーを開いてください。



2 本体の前にある電源スイッチを押し込みます。

電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを押し込みます。

または、Windows®95から[Windowsの終了]を選択したときに表示される[Windowsの終了]ダイアログボックスから[コンピュータの電源を切れる状態にする]をチェックして[はい]を選択しても、自動的に電源がOFFになります。



お買い上げ後初めて電源をONにしたときは、Windows®95セットアッププログラムが起動します。グライドポイントの使いかた(➔32ページ)を覚えてから、セットアップを実行(➔33ページ)してください。

⚠注意 **HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。**

Note 電源LEDの意味

消灯 :電源がOFFの状態
緑色の点灯 :動作中で、バッテリに余裕がある状態
黄色の点灯 :バッテリの残量が少なくなった状態
黄色の点滅 :バッテリの残量が残りわずかになった状態

Note 充電LEDの意味

緑色の点灯 :バッテリがフルに充電されている状態
オレンジ色の点灯 :バッテリ充電中
消灯 :ACアダプタが接続されていない状態

コンピュータをリセットする

新しいドライバを組み込んだり、周辺機器を追加したときなどは、それらを認識させるためにコンピュータを再起動させる必要があります。
通常、Windows®95の場合は、ドライバを組み込む時や周辺機器を追加してハードウェアウィザードを実行するときなどに再起動を促すメッセージが表示され、[OK]もしくは[はい]をクリックすることで再起動させることができます。
また、[スタート]メニューからWindows®95を終了させるときに「再起動」を選んで再起動させることもできます。
再起動させるには、このような方法以外にも、ソフトウェアリセットとハードウェアリセットの2通りの方法があり、それぞれの状況に応じてどちらかを実行します。

⚠注意　**むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。**

ソフトウェアリセット

新しいドライバを組み込んだり、MS-DOSモードでの使用時にAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSを書き換えるなど、おもにソフトウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行なってリセットさせます。

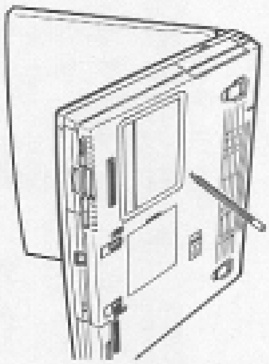
[Ctrl]と[Alt]と[Delete]キーを同時に押す

ハードウェアリセット

新たに周辺機器を接続するなど、おもにハードウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行なってリセットさせます。

本体をLCDを閉じずに裏返して、図の位置にある、リセットスイッチをボールペンの先などで押す。

リセットするとWindows®95が再起動します。



⚠注意　**リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。**

⚠注意　**サスペンドの実行中にハードウェアリセットを行うと、保存されていないデータは消えてしまいます。**

6 グライドポイントの使いかた

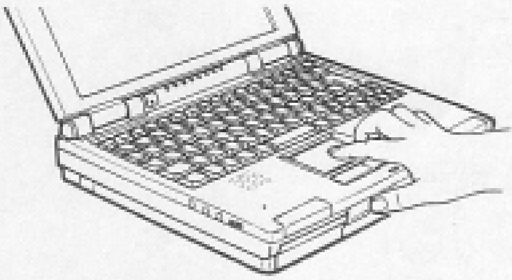
本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。Windows®95では、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意

- ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。
- ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

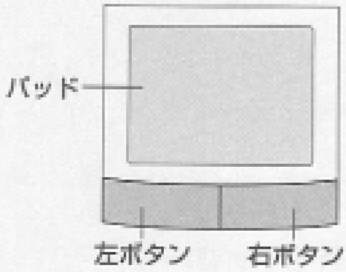
画面のポインタを動かすには・・・

グライドポイントは、本製品のキーボードの手前中央にあります。グライドポイントのパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。



クリック、ダブルクリック、ドラッグするには・・・

クリックとは、ボタンを1回押すことです。パッド上を1回たたくことでもクリックできます。ダブルクリックとは、ボタンを2回押すことです。パッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。
ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを1回押しながら（パッドを1回たたき）指をパッドから離さず動かしていきます。



7 Windows®95をセットアップする

お買い上げ後初めて電源をONにしたときには、まだ、Windows®95が使える状態にはなっていません。お使いになるには、Windows®95をセットアップする必要があります。
電源をONにし、メモリーチェックが終わると「Windows®95セットアップウィザード」の画面が表示されます。次の手順で、セットアップを行なってください。

⚠注意 **再インストールに必用な各種ドライバ、TranXit2のディスクおよび95セットアップ起動ディスクを必ず作成してください。**
各種ドライバのバックアップ用のラベルは、添付ラベルをご使用ください。（各ドライバの名称は記載されていません）また、Windows®95の起動ディスクのバックアップにもご利用ください。

1 ユーザー情報を登録します。名前を入力して[Tab]キーを押し、会社名を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

2 使用許諾契約書が表示されます。読み終わったら[同意する]のところにポインタをのせてクリックし、[次へ>]をクリックします。[同意しない]を選ぶとセットアップできません。

3 「Windows®95パッケージ」に添付されている「Certificate of Authenticity」のバーコードの上に記述されている「Product ID」を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

4 「ウィザードの開始」の画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。

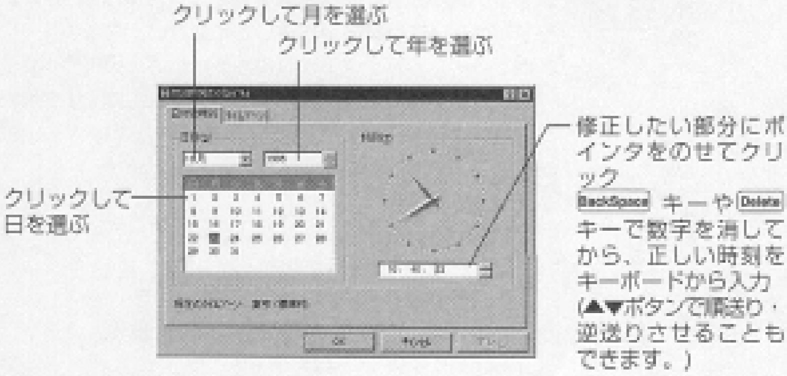
5 [日付と時刻のプロパティ]画面が表示されます。
[タイムゾーン]で、本製品を使用する場所を設定します。日本国内でお使いのときは変更する必要はありません。



6 [日付と時刻]のタブをクリックします。

⚠注意 カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。

7 日付と時刻を合わせます。



8 設定した日付と時刻に間違いないかどうか確認し、[更新] をクリックします。
何も変更していない場合は [更新] は表示されません。[閉じる] をクリックしてください。

Note **急に画面が真っ暗になったら・・・**

一定の時間キーを押さない状態が続くと、急に画面表示が消えることがあります。
これは、パワーセービング機能を設定しているときにパワーセービング状態に入ったことにより画面が消えたもので故障ではありません。何らかのキーを押すと元の表示に戻ります。

パワーセービング機能の設定については、90ページ「パワーマネージメント機能の設定」をお読みください。

9 「Microsoft Exchange」の設定が行われ、[プリンタ　ウィザード]画面が表示されます。本製品に接続できるプリンタをお持ちの場合は［次へ>］をクリックし、ウィザードの指示にしたがってプリンタをインストールしてください。
プリンタが無い場合は［キャンセル］をクリックします。



10「Windows95へようこそ」の画面が表示されます。Windows®95の機能や使い方などを知ることができます。この画面を閉じるときは［閉じる］をクリックします。

11 デスクトップ画面上にある「お使いになる前に実行してください」アイコンをダブルクリックします。

12 メッセージが表示されたら［OK］をクリックします。
壁紙（画面の背景）が変わり、「お使いになる前に実行してください」アイコンが消えます。

Note **画面を見やすく調整しましょう**

LCD画面の右側にあるノブをスライドさせて、液晶画面の輝度を見やすくなるように調整してください。

8 バックアップディスクを作成する

1 Microsoft Create System Disks作成画面が表示されたら、すべての項目のバックアップを行ないます。[次へ>] をクリックします。



2 作成するディスクセットを選択する画面が表示されます。まず、CD-ROMセットアップ起動ディスクを作成しますので、【Windows95 CD版セットアップ起動ディスク】が選択（反転表示）されているのを確認し、[次へ>] をクリックします。

3 1枚目のフロッピーディスクに、[マイクロソフトウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク] と書かれたラベルを貼り、フロッピーディスクドライブユニットにセットします。セットしたら、[次へ>] をクリックします。

4 フォーマットされていないディスクや、データが入っているディスクがセットされているときは、フォーマットしてもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいときは、[はい]をクリックします。
コピーが完了しましたら [次へ] をクリックしてフロッピーディスクを取り出してください。

Note　Windows95 CD版セットアップ起動ディスクと、95セットアップ起動ディスクの違い

Windows95 CD版セットアップ起動ディスクは、Windows®95を再インストールするときに使用します。このディスクには、付属の「マイクロソフトウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」と書かれたラベルを貼り付けて大切に保管してください。

95セットアップ起動ディスクは、Windowsが正常に起動しなくなったときに診断プログラムを実行し問題修復を行うためのディスクです。このディスクには、付属の汎用ラベルに「Windows95起動ディスク」と書いた後、貼り付けて大切に保管してください。

5 手順2～4と同様に、フロッピーディスクを入れ替え以下のもののバックアップを作成してください。
作成したバックアップ用フロッピーディスクには、付属の汎用ラベルにディスク名を記入して、貼り付け大切に保管してください。

- ・Windows95 CD版セットアップ起動ディスク
- ・WinBook Quattro/Rドライバーディスク
- ・ALPS Glide Pointドライバーディスク
- ・C&T VGAドライバーディスク
- ・ESSサウンドドライバーディスク
- ・TranXit2
- ・Windows95起動ディスク

6 [次へ>]をクリックすると、手順2の画面に戻りますので、[キャンセル]をクリックします。

7 システムディスクの作成を促すメッセージの表示をどうするか設定します。
システムディスクを作成しなかったときは、システムディスクの作成を促すメッセージがWindows®95の起動時に表示されます。
▼ボタンをクリックして、メッセージの表示回数を設定してください。



8 [完了]をクリックします。

Note あとでバックアップディスクを作成するときは

[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】－【アクセサリ】－【システムツール】－【Create System Disks】を選ぶと、Microsoft Create System Disks作成画面が表示されます。

Note Windows®95が起動しなくなったときは

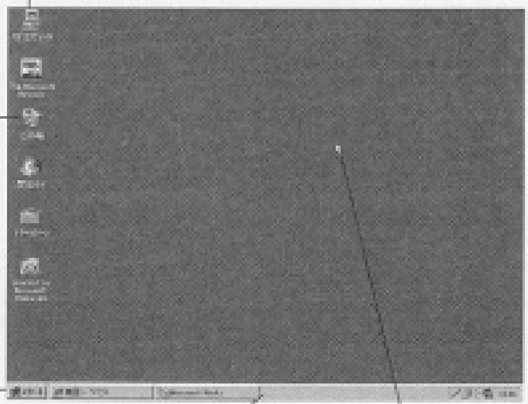
間違ったシステム設定を行なったり、前回Windows®95が異常終了したときなどは、正常に起動できなくなることがあります。このとき、「Starting Windows95」と表示されている間にF8キーを押すと表示される起動メニューでSafeモードを選択すると、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。詳しくはWindows®95のマニュアルをお読みください。

9 Windows®95の使いかた

Windows®95は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへの文字や画像のコピーも簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行できます。
ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®95の基本的な操作方法について説明します。詳しい使い方については、付属のWindows®95のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

Windows®95の画面について

マイコンピュータアイコン
ドライブのアイコンが表示され、中にあるファイルやフォルダを見ることができます。



ごみ箱アイコン
削除したファイルやフォルダを一時的に保管しておく場所です。

スタートボタン
クリックすると階層メニューが現われ、アプリケーションを実行したり、様々な設定を行なうコントロールパネルやファイルを操作するエクスプローラなどを起動できます。
(➔40ページ)

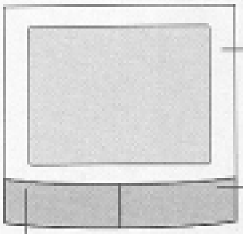
タスクバー
実行されているアプリケーションを切り替えることができます。右端には時計などが表示されています。
(➔40ページ)

ポインタ
アイコンやメニューなどを選んだり、ウィンドウの位置や大きさを変えることができます。
(➔41ページ)

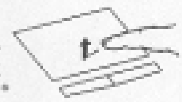
電源をONにするとWindows®95の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®95では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行ないます。

クリックとダブルクリック

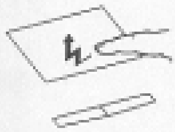
Windows®95の世界では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、ポインタ(マウスカーソルともいいます)を使って行ない、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。
クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。



●クリック・・・・・・・パッドを1回たたくこと（またはボタンを1回押すこと）。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。



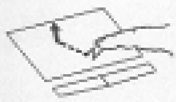
●ダブルクリック・・・パッドを2回たたくこと（またはボタンを素早く続けて2回押すこと）。アイコンを選んでアプリケーションを起動するときや、なにかの処理を実行するときに使います。



ドラッグ & ドロップ

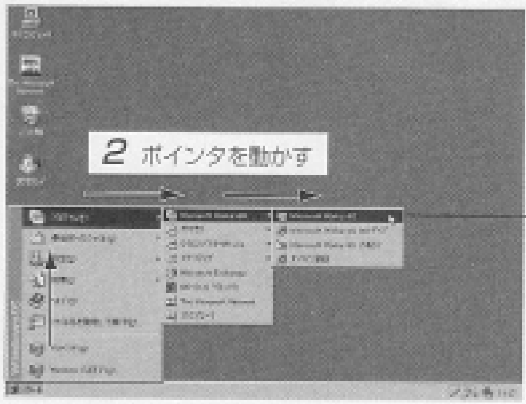
ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。



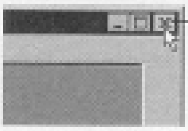


アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動するには、スタートボタンをクリックすると現われるスタートメニューを使います。
マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。

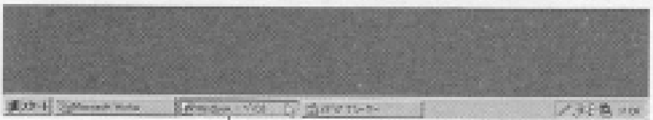


アプリケーションを終了する



アプリケーションを切替える

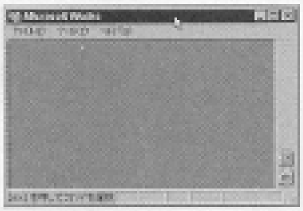
実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。
ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一番前に表示させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示して使えるようにするにはタスクバーを使います。



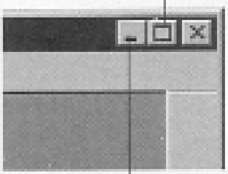
ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で動かしたい方向に指を動かします。



ウィンドウの大きさを変える

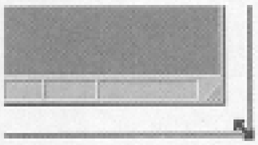


[最大化]ボタンをクリック
画面いっぱいに表示します。元の大きさに戻すときは ボタンをクリックします。

[最小化]ボタンをクリック
ウィンドウを閉じます。終了とは異なり、アプリケーションは実行されており、タスクバーのボタンをクリックすることで再び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に変える

ウィンドウの枠にポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。
(最大化の状態では、変えることはできません。)



10 サスペンド機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

サスペンド機能の設定

本製品には、Windows®95のスタートメニューから［サスペンド］を実行することで現在の状態をメモリに保存して電源をOFFにし、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させせることができる「サスペンド機能」が搭載されています。
この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロをいったん終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。
サスペンドさせる場合は、次の手順で設定を変更してください。

1. Windows®95を起動すると「コントロールパネル」フォルダ内に「パワーマネージメント」のアイコンが登場します。
2. 「パワーマネージメント」のアイコンをダブルクリックし、「パワーマネージメント(P):」表記の下にある「標準」「詳細」「オフ」の中から「詳細」を選択します。
3. 「［スタート］メニューの［サスペンド］コマンドの表示」の中で「常に表示(Y)」のラジオボタンをONにします。
4. ［OK］ボタンをクリックします。

Note サスペンド機能とレジューム

サスペンド状態から再度電源をONにし、作業を中断した状態まで復帰することを、レジュームといいます。

Note スタートメニューからサスペンドさせる

上記の設定を行うと、Windows®95の[スタート]ボタンをクリックすると表示されるメニューに[サスペンド]が追加されます。これを選ぶと、電源スイッチをOFFにしなくても、すぐにサスペンド・レジュームさせることができます。

スピーカの音量の調節

本体には、ステレオスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

ボリュームノブで音量を調節するとき

本体左側面のボリュームノブで調節します。
PCカードモデムの発信音は、このボリュームで調節します。

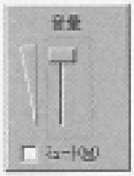


Windows®95でスピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの 🔊 を左クリックする



つまみをドラッグして調節する(「ミュート」をチェックすると音声が消えます)

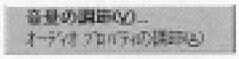


Windows®95で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

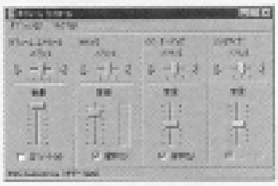
タスクバーの 🔊 を右クリックする



[音量の調節]を左クリックする



ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する



音量の調節はFn+F5(音量を下げる)またはFn+F6(音量を上げる)でも一時的に調節が可能です。(ハードウェア的にもWindows®95にも影響しません。)
使用するアプリケーションおよびPCカード、モデムカードによっては別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調節してください。

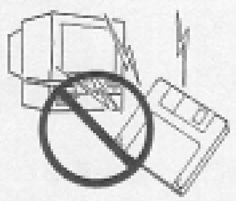
11 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが装着されています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

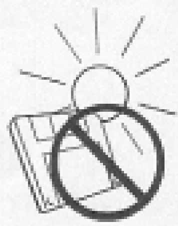
フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、コンピュータの電源をオフにする前に必ずドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

⚠ 注意



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。



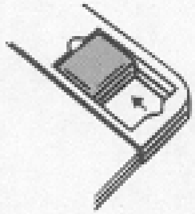
ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

Note 読み書きできるフォーマットは?

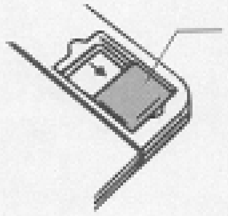
出荷時のままの状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MB・1.2MBの各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができます。
ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。



書き込み可能状態

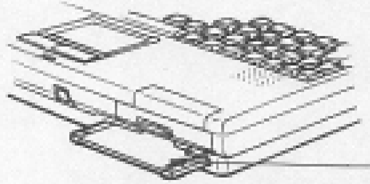


書き込み禁止状態

- ●ライトプロテクトノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
- ●ライトプロテクトノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にして、ドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。



フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。
フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Note　1.2MBでのフォーマットは？

1.2MBのフロッピーディスクのフォーマットは行えません。1.2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライバ（出荷時インストール済）はリード/ライトのみをサポートするものです。また、1.2MBのディスクから起動することもできません。3モードドライバはWindows®95上でのみサポートしており、MS-DOS上ではサポートしていません。

MEMO

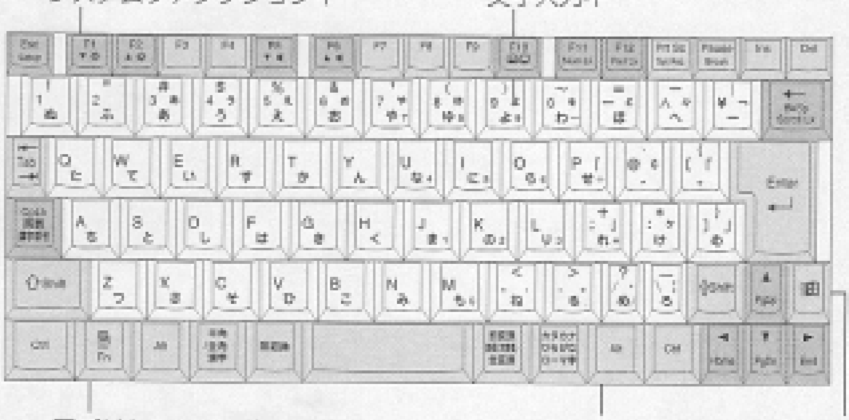
第2章

キーボード操作になれよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作になれていない方は必ずお読みください。

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードには色分けされていません。

文字入力キー

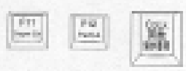
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、CpLk Shift NumLk ひらがな カタカナの各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、51ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(薄いアミの部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。
これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note ロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。



システムファンクションキー(濃いアミの部分)

制御キーの一つである[Fn]キー、ファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、スピーカの音量を調節できます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

ディスプレイの輝度を変える

[Fn]＋[illegible] 輝度を下げる　　[Fn]＋[illegible] 輝度を上げる

LCD表示かCRT表示かを切り替える

[Fn]＋[illegible] 1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD･CRT同時の順に切り替わります

ディスプレイについては、76ページをお読みください。

スピーカの音量を調節する

[Fn]＋[illegible] 音量を下げる　　[Fn]＋[illegible] 音量を上げる

アプリケーションキー

グライドポイントの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

Windowsキー

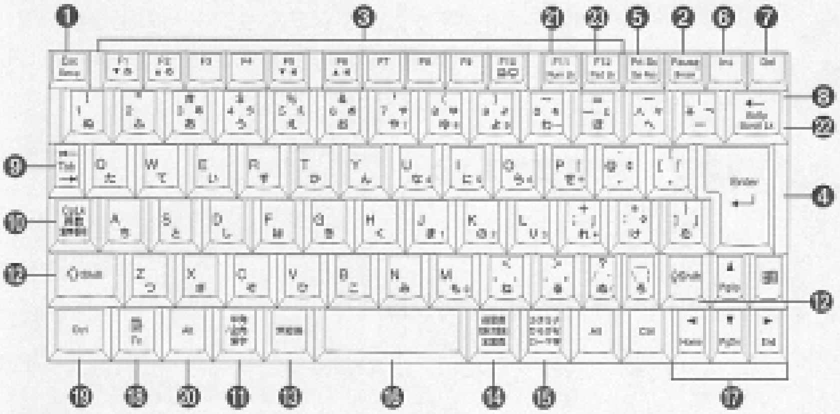
単独で押すとWindows®95「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows®95の代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能	キー	機能
+[F1]	Windows95のヘルプを表示	+[M]	ウィンドウの最小化
+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え	+[R]	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示
+[E]	エクスプローラの起動	+[Pause]	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示
+[F]	ファイル検索起動		
+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面表示		

Note Windows®95でサポートされないキーについて

文字入力キーのうち、£、々、¬、¢、『 』、゜、：の8つの記号はキーボードから入力できません。これらの文字については、日本語入力システムの文字パレットなどの機能を使い、文字を入力してください。なお、゛の文字は[Shift]+[illegible]で入力できます。

各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1からF12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®95の画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー

Windows®95を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー【ロックされます】

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。[Shift]+[Tab]キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CpLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。[Shift]キーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、[Alt]キーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押しながらキー入力します。

⓮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときは[Shift]キーと同時に押すと切り替わります。また、[Ctrl][Shift]キーと同時に押すとカナキーのON／OFFを切り替えることができます。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース（空白）を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。また、[Fn]キーと同時に使うと、ページ切り替えキー(PgUp/PgDn)、Home(ホーム)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、そのキーと同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより特定の動作をさせることができます。

⓴Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能やカーソルの動きを変えることができます。

㉑NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】

Fnキーと同時に押すと、Fnキーと併用することでキーボードの右半分の部分を数字キーとして使えるようになります。

㉒ScrollLk(スクロールロック)キー【ロックされます】

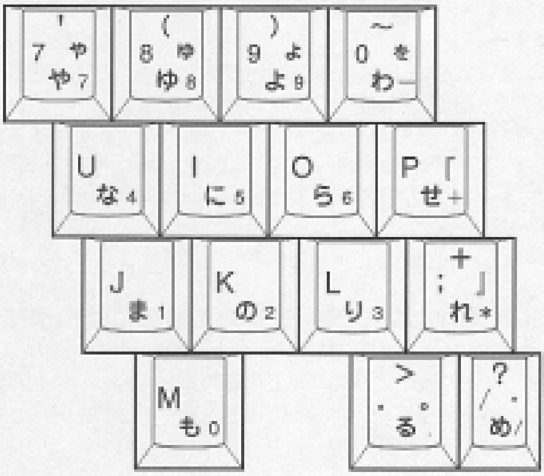
キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

㉓PadLk(パッドロック)キー【ロックされます】

Pad LkキーをロックSTATE状態にし、さらにNumLkキーをロック状態にすることで、キーボードの右半分の部分を数字キーとして使えます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fnキーと同時にPad Lkキーを押すことにより、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。



Note 電源ONのままカバーを閉じると

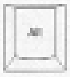
サスペンドが有効になっているときに、電源をONのままカバーを閉じると、サスペンド状態に入ります。(➔ 95ページ)

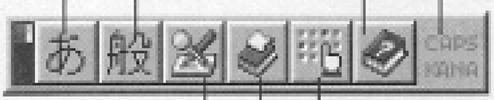
2 文字を入力する

キーボードから文字を入力する方法について説明します。ここでは、本製品にインストールされている日本語入力システム MS-IME97を例に説明しています。別の日本語入力システムをお使いのときは、お手持ちのマニュアルをお読みください。

入力方法について

Windows®95起動直後は何も表示されていませんが、デスクトップ上をクリックすると日本語入力システム(IME)のツールバーが現われます。「A」と表示されている状態(直接入力モード)では、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボードに表記されている記号だけしか入力することができません。左端の「A」と表示されているボタンをクリックして入力モードを選ぶか、次のように操作をするとツールバーに各ボタンが表示され、全角の文字や漢字を入力できるようになります。

 キーを押しながら  キーを押す



入力モードと変換方式は、ボタンをクリックすると表示されるリストから選ぶことができます。

ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときはKとAを続けて押すことで「か」が入力できます。
かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME97のプロパティ]の中で設定します。

また、ローマ字入力のときに[Ctrl]と[英数]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力のときは、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

・入力前に文字の種類を決めておく‥切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する

・入力後に文字の種類を決める‥‥‥全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F6]～[F10]キーで希望の文字種に変換する

モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	あ	[ひらがな]	[F6]
全角カタカナ	ア	[Shift]＋[カタカナ]	[F7]
半角カタカナ	ｱ	[Shift]＋[カタカナ][半角/全角]	[F8]
全角英数	Ａ	[英数]	[F9]
半角英数	A	[英数][半角/全角]	[F10]

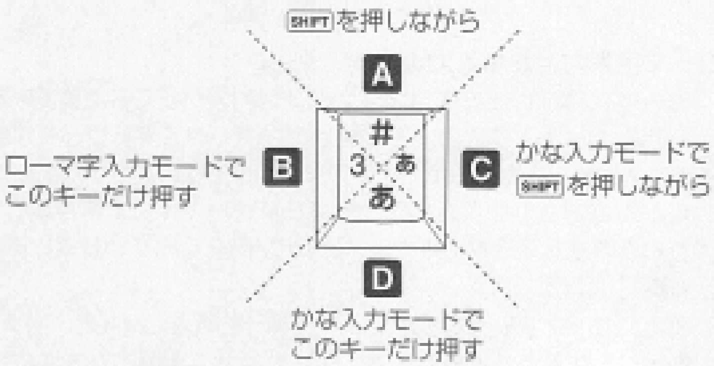
※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、半角カタカナ・半角英数から全角文字に切り替えるときは[半角/全角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CpLk][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



2 キーボード操作になれよう

文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	文字キー D
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A の前に[X]
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー D
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A の前に[X]
アルファベット小文字(a、b、cなど)＊1				
ローマ字入力		A A	[英数]	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)＊1				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	A A	[英数]	[Shift]+文字キー A
	連続して入力	A A	[Shift]+[英数]	文字キー A
かな記号(。、,、・,「」など)				
カナ入力・ローマ字入力		あ ア ア	[ひらがな]	記号キー A B C
英記号(!,@,#,$,%,^,&,*など)＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		[Shift]+記号キー A B C
数字＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		数字キー B ＊2

＊1　カナ入力の場合は、カナキーをOFFに切り替えてから入力します。

＊2　[Pad Lk] キーをロック状態にし、さらに [NumLk] キーをロック状態にすることで、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

Note　大文字/小文字モードに固定するには

[Shift]キーを押しながら[CapLk]キーを1回押すと、「CAPSロック」がON・OFFされ、大文字固定入力(ON)と小文字固定入力(OFF)が切り替わります。ON・OFFの状態は、本体のステータスLEDか、ツールバーのインジケータに示されます。

Note　1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

[Shift]キーを押しながらアルファベットキーを押すと、固定入力のモードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードで[Shift]キーと[A]を同時に押すと「a」を入力できます。

MEMO

第3章

マルチメディアを楽しもう

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能、CD-ROMドライブの使いかたなどについて説明しています。

1 サウンド機能を使う

本製品には、サウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。 このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。
スピーカの音量は本体のボリュームノブで調節できます。また、それぞれの音源は、Windows®95のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることもできます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカードから発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードなど)
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵マイクやマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

内蔵マイクについて

本体上面の左手前にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

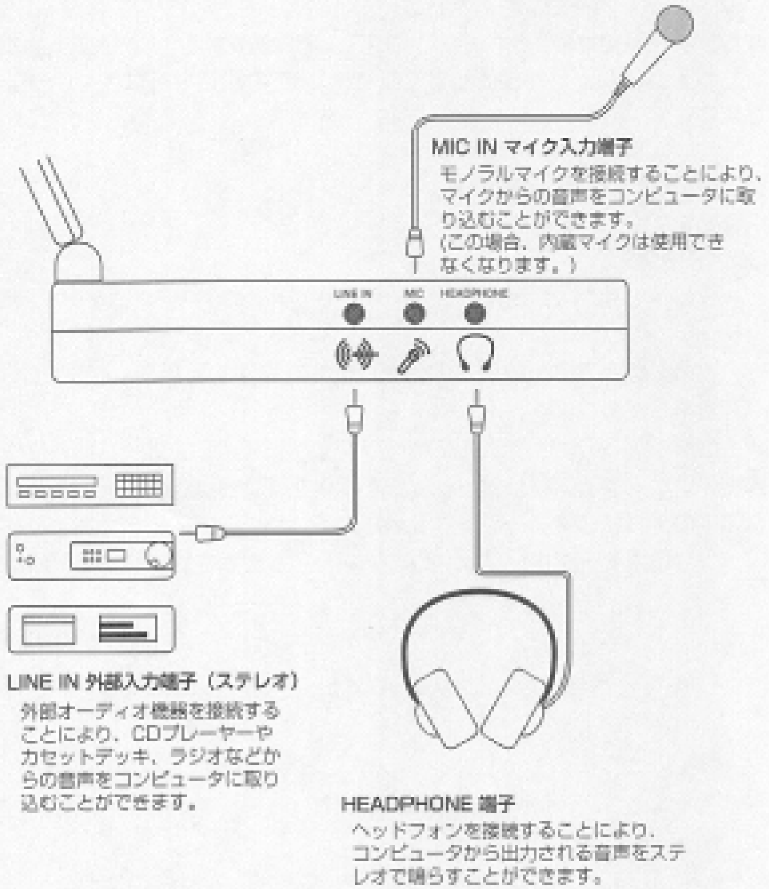


Note 音量を調節するには

スピーカの音量は、本体のボリュームノブで調節できます。
また、タスクバーの をクリックし、表示されるボリュームコントロールでも調節できます。

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の左側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



MS-DOSアプリケーション使用時

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPRO（FMシンセサイザ機能を除く）と互換があります。
ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOSやWindows 3.1用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPRO」を選択してください。
また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行なえないソフトウェアもあります)

I/Oポートアドレス	:220H
IRQチャネル	:5
DMAチャネル	:1
データビット幅	:8bit

Windows®95では上記項目の値を自動的に変更するため、MS-DOS上での設定と異なる場合があります。
Windows®95のMS-DOSプロンプトで、MS-DOSのゲームなどサウンドチップに直接アクセスするアプリケーションを使用する場合は、コントロールパネルのシステムの中のデバイスマネージャで表示される［サウンド、ビデオおよびゲームのコントローラ］項目をダブルクリックし、リソースを表示させ、各値を参照してください。

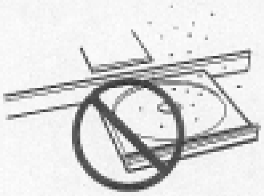
2 CD-ROMを使う

CD-ROMを使う方法について説明します。

CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

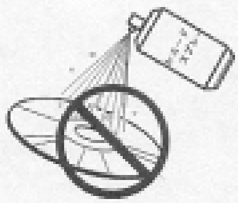
⚠注意



トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。



清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必らずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。



ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

CD-ROMドライブの中には輸送用のストッパーが付いています。ご使用前に必ず外してください。

⚠注意 CD-ROMドライブのトレイ内にある自動振動検出スイッチはONにしてください。CD-ROMディスクの中には製造上の要因により偏芯したディスクがあります。CD-ROMドライブは、ディスクを高速で回転させるため、この偏芯したディスクを使用すると、振動が発生し読み取りエラーやディスクの破損、ドライブの故障の要因となります。

Note 自動振動検出スイッチについて

CD-ROMドライブのトレイ内にあるスライドスイッチはCD-ROMの読みとり時にディスクの振動を自動検出する機能の切替えスイッチです。（出荷時はONになっています。）

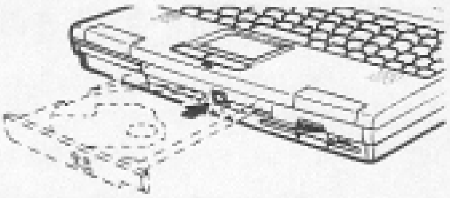
ONの場合…CD-ROMの読み取り中に一定の振動を検出すると、読み取り速度（回転数）を自動的に下げて振動を防止します。

OFFの場合…振動を検出しないので、ディスクによっては振動が発生したまま動作します。

CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 イジェクトボタンを押します。



3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレイにCD-ROMを確実に固定してください。

4 もう一度イジェクトボタンを押し込みます。

5 取り出すときは、CD-ROMアクセスランプが点灯していないのを確認してからイジェクトボタンを押します。

CD-ROMで楽しむ

本製品では次の規格のCD-ROMを再生できます。

● CD-DA、CD-Extra

CD-DAは音楽用CDです。音楽用CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows®95の「CDプレーヤー」を起動して音楽を聞きます。CD-Extraは音楽用CDなのですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

● CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在、最もよく使われているのがCD-ROMです。

● Photo CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

● Video CD

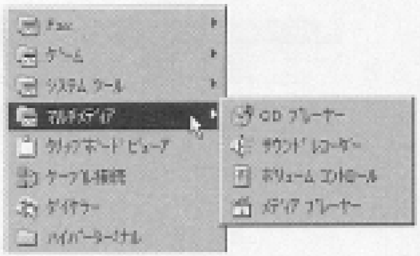
Video CDはActive Movie Control(MPEGもActive Movie Control)で再生します。MMX対応のVideo CD再生ソフトウェアを使用すれば、より快適に再生できます。

⚠注意 DVDは再生できません。

3 マルチメディア機能を使う

Windows®95には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】-【アクセサリ】-【マルチメディア】から起動します。



CDプレーヤー

音楽用のCDを再生するプレーヤーです。CD-ROMドライブが接続されている状態で、ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけで自動的に起動し、再生させることができます。
他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。



Note MPEGの再生について

MPEGはActive Movie Controlで再生します。

メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。
インストールされているWindows®95には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。



サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を編集し、録音することができます。録音したサウンドは、WAV形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されていますので、ボイスメモとして活用することも可能です。



Note **Video for Windows**

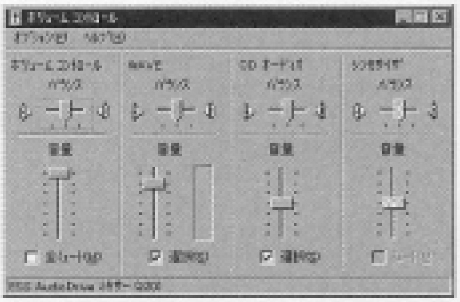
マイクロソフト社が開発したデジタル動画編集再生ソフトです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®95には、再生機能のみ搭載されています。

Note **MIDI(ミディ)**

電子楽器を外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに市販のMIDI音源(様々な楽器の音色が記憶されている)を接続し、MIDIファイル(拡張子はMID・RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を高音質で演奏させることができます。

ボリュームコントロール

マイクやLINE IN端子から入力された音声や、WAVファイル、MIDIファイルなどの音声、音楽用CDから出力される音声の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。



MEMO

第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、メモリやハードディスクを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードとＬＡＮカードを使うときの注意事項などについて説明します。

PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

カードサイズについて

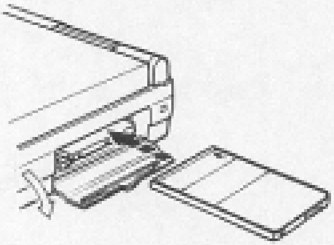
PCカードには、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、PCカードスロットが2スロット分あり、TYPEⅡを1枚とTYPEⅢを1枚装着できます。

カードの抜き差し

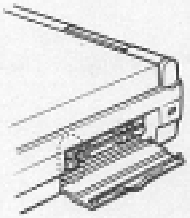
PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
PCカードを利用するアプリケーションを実行する前にPCカードを装着しておいてください。

カードを装着する

1 カードスロットカバーを図の方向に開けます。



2 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。
正しく装着されると、カードイジェクトボタンが飛び出します。



⚠注意 異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。
また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。

Note **ビープ音が鳴らないときは**

本体のボリュームノブがしぼられています。

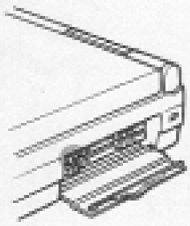
3 正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が「ピポ」と鳴ってシステムがカードを認識します。
認識できないときはビープ音が「プ」と鳴ります。
カードの接続やドライバの種類を確認してください。

カードを取り外す

1 [コントロールパネル]の中の [PCカード(PCMIA)]のプロパティ画面上から取り外すカードを選択して、[終了]をクリックします。

2 取り外したいカードが装着されている側の、カードイジェクトボタンを押します。

3 カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。



⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。
また、システム動作中にカードを取り外すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

モデムを使う

モデムカードを使用して電話回線をつなぐと、Windows®95の通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

ハイパーターミナルを使うときの注意

ハイパーターミナルを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・ハイパーターミナルのCOMポートは自動的に設定されるか、モデムのインストール時に設定されます。設定を変更する場合は、コントロールパネルのモデムで設定してください。

Word I/Oアドレス

CPUがデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

Word IRQ(割り込みチャネル)

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本製品をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができます。装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、認識方式が決められています。この場合、カード認識用ドライバをインストールして設定を行う作業が必要になります。
LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

2 メモリを増設する

本製品には、16MBのシステムメモリが装着されています。専用拡張RAMモジュールを増設することにより、最大80MBまでメモリを使うことができます。
メモリを増設する場合、同じ容量の拡張RAMモジュールを必ず2枚セットで装着してください。

⚠注意 専用拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。
他社製のRAMモジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。

拡張RAMモジュールの装着

増設時には同じ容量の拡張RAMモジュールを必ず2枚あわせて装着します。
拡張RAMモジュールを1枚だけ装着する、または異なる容量の拡張RAMモジュール(例えば8MBと16MB)をあわせて装着することはできません。

48MBまでメモリを増設する場合

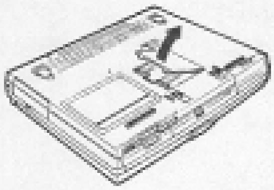
32MB(16MBの拡張RAMモジュールが2枚)の拡張RAMモジュールを装着します。

最大80MBまでメモリを増設する場合

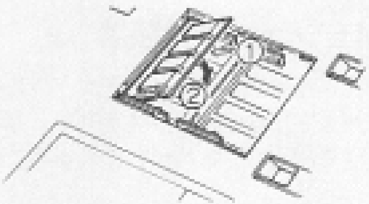
64MB(32MBの拡張RAMモジュールが2枚)の拡張RAMモジュールを装着します。

⚠注意 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(➔95ページ)

1 電源をOFFにしてから、本体底面の拡張RAMエリアのカバーを開けます。



2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。



3 拡張RAMエリアのカバーを閉めます。

4 電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 [Fn]+[Esc]を同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

7 システムコンフィグレーションメニューを終了させます。
【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔81ページ)をお読みください。

3 ハードディスクドライブを交換する

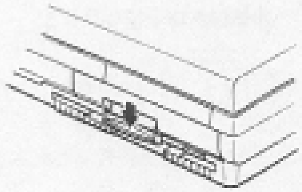
本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

⚠注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

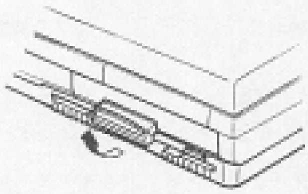
ハードディスクを取り外すには

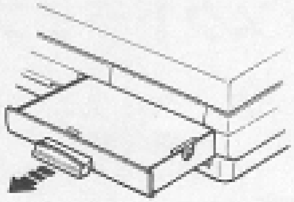
⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→95ページ)

1 ハードディスクドライブの取っ手を図のように引き下げます。



2 ハードディスクドライブの取っ手を起こして引き出します。

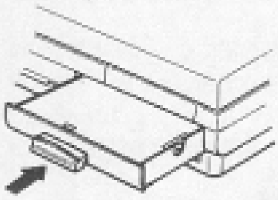




ハードディスクを取り付けるには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り付けることはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(➔95ページ)

1 ハードディスクドライブを挿入します。



⚠注意 ハードディスクドライブの上下に注意して挿入してください。ラベル貼付側が下になります。

2 ハードディスクドライブの取っ手をしっかりとロックします。

3 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにパソコンの再起動を勧めるメッセージが表示されます。

4 [Y]を押します。

5 システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行なわれます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔81ページ)をお読みください。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

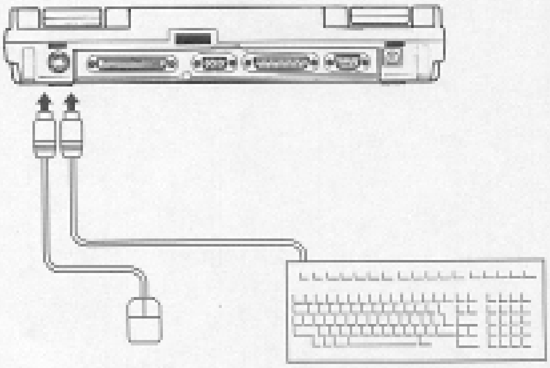
Note 新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブには、Windows®95はインストールされていません。
使いはじめるには、Windows®95のインストールを行ってください。インストールの方法については、添付のWindows®95のマニュアルをご覧ください。

4 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードやテンキーパッドまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードおよびマウスを接続することができます。

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で装着できません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→95ページ)



本体背面の左側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボード、テンキーパッド、マウスのケーブルを接続します。
接続されたキーボード・テンキーパッドやマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。
外部キーボードとマウスを同時に使用する場合は、ポートリプケータ(オプション)をご使用ください。
なお、市販のキーボード、マウス・アダプタは本製品では使用できません。

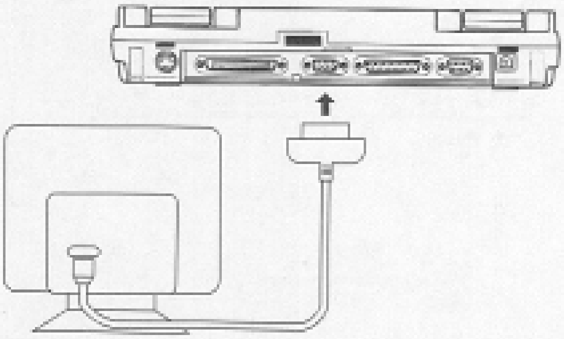
Note 外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行ないながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。
なお、外部テンキーパッド側でNUMロックをONにしても、本体のNUMロックLEDは点灯しません。使用できる製品については弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

5 外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、最大1024×768ドットの解像度で表示できるようになります。

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で装着できません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(➔95ページ)



コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを接続します。
システムコンフィグレーションメニューのBoot Displayの設定が「CRT」または「LCD and CRT」の場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューで「CRT」または「LCD and CRT」の設定にしてください。
システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔81ページ)をお読みください。

⚠注意 外部モニタを接続した場合、Windows®95のコントロールパネル[画面]の中で「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。

⚠注意 LCDとCRTを同時表示する場合、接続する外部モニタは設定したデスクトップ領域(解像度)をサポートしたディスプレイを使用してください。

Note 一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F10を1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

ディスプレイの種類を設定するには

1. [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2. コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。

3. [ディスプレイの変更]をクリックします。

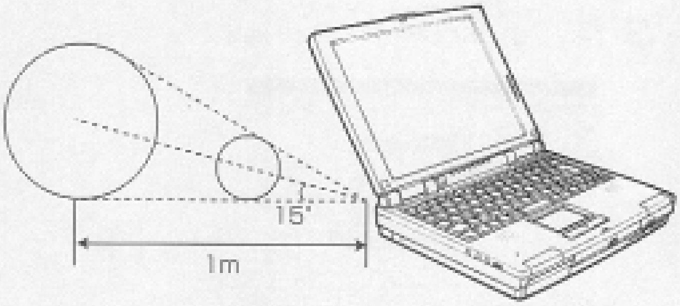


4. 「カラーパレット」で色数を、「デスクトップ領域」で解像度を設定し、[OK]をクリックします。

5. Windows®95を再起動する必要があります。[システム設定の変更]ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

6 IrDAポートを使用する

本製品には、赤外線でデータを送受信するための定められた規格である「IrDA」に準拠したIrDAポートが装備されています。IrDAポートを装備した他の機器とケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。



コンピュータの背面にあるIrDAポートと他の機器のIrDAポートがむかいあうように配置します。

⚠注意 IrDAポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。

IrDAおよびシリアルポート、プリンタポートを使用して、他のパソコンとデータ転送をする場合は、添付ソフト「TranXit2™」のReadmeをお読みください。
なお、NEC製PC-9800シリーズとは、シリアルポートまたはプリンタポートからケーブルを使ったデータ転送はできません。IrDAポートを持っているパソコンのみと転送ができます。

第5章

システムの設定を変える

システムコンフィグレーションを使ってシステムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行なえます。

・カレンダの日付と時間を設定する(➔85ページ)
・起動方法と起動ドライブを設定する(➔85ページ)
・ディスプレイモードを設定する(➔85ページ)
・通信ポートを設定する(➔86ページ)
・プリンタポートと動作モードを選択する(➔86ページ)
・キーボードの動作を設定する(➔87ページ)
・スピーカから音を鳴らすかどうか選択する(➔87ページ)
・パスワードを設定する(➔88ページ)
・2次キャッシュメモリを使うかどうか設定する(➔88ページ)
・設定をデフォルト状態に戻す(➔89ページ)
・システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する(➔89ページ)

メニューと操作方法について

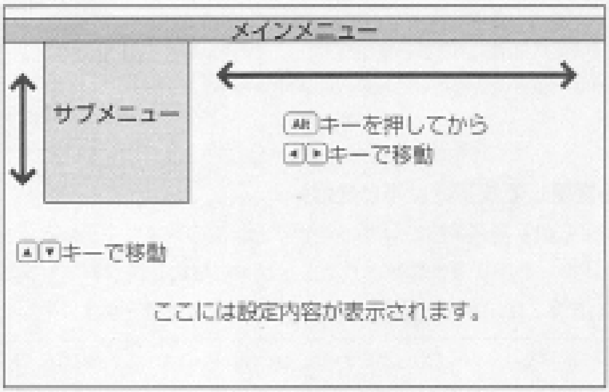
メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、コンピュータの電源をONにしたすぐ後のメモリチェックのところで[Fn]と[Esc]キーを同時に押します。

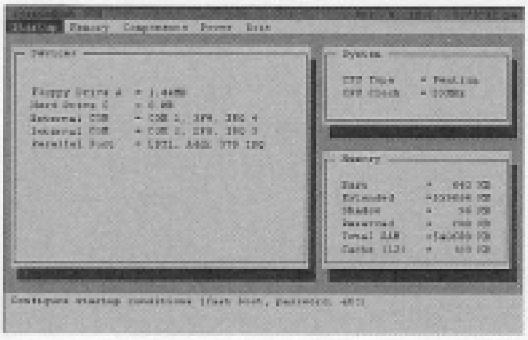
Windows®95が起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行なえません。必ずWindows®95が起動する前にこの操作を行なってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は[Alt]を押してから[◀][▶]キーでメインメニューを選び、[▼]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。



《項目の選択・設定の方法は》



（画面の設定値は例です）

・メインメニューを選択するには……………［Alt］キーを押してから、［◀］［▶］キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・サブメニューを選択するには……………［▲］［▼］キーでカーソル(反転部分)が移動します。
・項目を移動するには……………［Tab］キーを押します。
・メニュー項目や設定を確定するには……………［↵］キーを押します。
・設定を変更せずに元に戻るときは……………［Esc］キーを押します
・サブメニュー内で有効・無効を設定するには…［　　］キーでチェックマーク(✓)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
・項目内で有効・無効を設定するには……………［▲］［▼］キーで移動し、［　　］キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
・機能を使用しない設定にするには……………【Always On】【Disable】【None】を選択します。
・終了するには……………メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、［Esc］キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して［↵］キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

もう一度［↵］キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。［Esc］キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を変更して再起動させるときは》

【Save and Reboot】を選択して［↵］キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

もう一度［↵］キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了し、システムを再起動します。［Esc］キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM. The
computer will be rebooted!!!
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して［↵］を押し、もう一度［↵］を押すと変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

日付と時刻を設定する

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

● カレンダの日付を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている日付が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、数字キーで日付を入力します。

● カレンダの時間を設定する

【Startup】-【Date and Time】

現在設定されている時刻が表示されますので、Tabキーで項目を移動し、数字キーで時間を入力します。

起動方法を設定する

● 起動ドライブを設定する

【Startup】-【Boot Device】

起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスクのいずれかから選びます。

「FD A/HD C」を選ぶと、フロッピーディスクをセットしているときはフロッピーディスクから、セットしていないときはハードディスクからシステムが起動します。「Hard Disk C」を選ぶと、フロッピーディスクをセットしているいないにかかわらず、ハードディスクからシステムが起動します。

● ディスプレイモードを設定する

【Startup】-【Boot Display】

「LCD and CRT」を選ぶと、画面はCRTとLCDの同時に表示されます。「LCD」を選ぶとLCDのみ、「CRT」を選ぶとCRTのみに表示されます。

Note　**起動ドライブについて**

デフォルトでは、ドライブCのハードディスクからWindows®95が起動する設定になっています。

サスペンド機能の設定を行なう

● **サスペンド機能を電源スイッチで実行させるかどうか設定する**

【Startup】-【Power Switch】

電源スイッチを押したときにサスペンド機能を実行させる場合は「Suspend」を、電源のON/OFFのみ機能させる場合は「ON/OFF」を選びます。

各種入出力ポートの設定を行なう

● **シリアル通信／赤外線通信ポートを選択する**

【Components】-【Serial/IR Ports】

外部シリアル通信ポート(Serial Ports)は通常COM1(3F8h)で、使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM2、COM3、COM4から任意に設定できます。

赤外線通信ポート(IR Ports)は通常COM2(2F8h)で、使用するアプリケーションにより変更が必要なときはCOM1、COM3、COM4から任意に設定できます。

使用しないよう特に設定したい場合は「Disabled」を選びます。

⚠注意 **シリアルポートと赤外線通信ポートのCOMポート番号は重ならないように設定してください。なお、COM2とCOM4の同時使用、およびCOM1とCOM3の同時使用はできません。**

● **プリンタポートと動作モードを選択する**

【Components】-【Parallel Port】　ポートのI/Oアドレス設定
【Components】-【Parallel IRQ】　ポートのIRQチャネル設定
【Components】-【Parallel DMAC】　ポートのDMAチャネル設定
【Components】-【Parallel Port Type】　動作モードの設定

通常は「LPT1(378h)」に設定します。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはLPT2、LPT3に設定を変更できます。割り込みチャネルは通常「IRQ7」、DMAチャネルは通常「DMA0」に設定します。動作モードは、通常「Standard AT (Centronics)」に設定します。

● **オーディオ・MIDI出力を設定する**

【Components】-【Audio Base Port】　オーディオ出力のI/Oアドレス設定
【Components】-【Audio,MIDI IRQ】　オーディオ、MIDI出力のIRQチャネル設定
【Components】-【DMAC】　オーディオ出力のDMAチャネル設定

通常はI/Oアドレスを「220h」、IRQチャネルを「IRQ5」、DMAチャネルを「DMA1」に設定します。

● MIDIポートのI/Oアドレスを設定する

【Components】-【MIDI Port】

MIDIポートのI/Oアドレスを300h、320h、330hのいずれかに設定します。使用しないときは「Disabled」を選びます。

● スピーカから音を鳴らすかどうか選択する

【Components】-【Speaker】

チェックマークが付いているとスピーカから音が出ます。

なお、この機能で制御できるのはPCスピーカ（ビープ音）とPCカードからの音のみです。

入力デバイスの設定を行なう

● キーボードの動作を設定する

【Key】-【Keyboard Type】	キーボードの国別仕様を設定
【Key】-【Typematic Delay】	オートリピートが始まるまでの遅延時間設定
【Key】-【Typematic Rate】	オートリピートの間隔を設定

キーボードの国別仕様を設定します。出荷時の設定のまま「Japanese」でお使いください。また、オートリピートの間隔や、オートリピートが始まるまでの遅延時間を設定できます。

間隔は2cps(2文字/秒)から30cps(30文字/秒)までの範囲で設定します。遅延時間は、1/4秒(250ms)から1秒(1000ms)までの範囲で設定できます。

Word オートリピート

ほとんどのキーは、押し続けることで連続してその機能を実行したり、文字を入力することができます。このように、何度も続けて押したときと同じ状態になることを「オートリピート」といいます。

Note プリンタポート

本製品のプリンタポートはEPPとECPに対応しており高速転送が可能です。

EPPはXIRCOMが推奨している規格です。ECPはIEEE1284準拠で提唱されている規格です。

2次キャッシュメモリの設定を行なう

● **キャッシュメモリを使うかどうか設定する**

【Miscellaneous】 - 【L2 Cache】

2次キャッシュの設定を行います。

特に必要がない限りキャッシュは有効（✓）にしてください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードが遅くなります。

1次キャッシュは常時有効です。

パスワードを設定する

● **パスワードを設定する**

【Security】 - 【Password】

システム起動時、またはシステムコンフィグレーション起動時にパスワードの入力が必要になるよう設定できます。

いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、1文字から8文字の長さで設定します。

パスワードの入力を間違った場合は再入力できます。

```
Enter Password:_______
```

⚠注意　**パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンタまでご連絡ください。**

システムコンフィグレーションのその他の設定

● 設定をデフォルト状態に戻す

【Exit】-【Defaults】

各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は下の表のとおりです。

● システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する

【Exit】-【Version Info】

システムコンフィグレーション(BIOS)のバージョンが表示されます。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Startup	Date and Time	No effect	デフォルトはありません
	Boot Device	HardDisk C	ハードディスクから最初にブート
	Boot Display	LCD	LCDにのみ表示
	Power Switch	ON/OFF	電源スイッチはON/OFFで設定
Memory	L2 Cache	Enable	2次キャッシュオン
Components	Serial Ports	COM1(3F8h)	シリアルポートはCOM1設定
	IR Ports	COM2(2F8h)	赤外線通信ポートはCOM2設定
	Parallel Port	LPT1(378h)	プリンタポートをLPT1に設定
	Parallel IRQ	IRQ 7	割り込みチャネルは7
	Parallel DMAC	DMA0	DMAチャネルは0
	Parallel Port Type	Bidirectional(PS-2)	相方向モードに設定
	Audio Base Port	220h	I/Oは220h
	Audio MIDI Port	IRQ 5	オーディオ:IRQ 5　MIDI:IRQ 9
	Audio DMAC	DMA1	DMAチャネル1
	MIDI Port	330h	I/Oは330h
	Speaker	On	PCスピーカ出力オン
Key	Keyboard Type	Japanese	日本仕様
	Keyboard Delay	500ms	0.5秒10文字/秒
	Keyboard Rate	10CPS	10文字/秒
Miscellaneous	L2 Chashe	有効	2次キャッシュメモリ有効
	Wake Up Alarm	Disabled	ウェークアップアラーム禁止
	Low Battery Beep	Enable	ローバッテリービープ有効
Security	Password	なし	デフォルトはありません

2 パワーマネージメント機能の設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのパワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド機能が搭載されています。ここでは、システムコンフィグレーションメニューを使って、これらの機能を設定する方法について説明します。

パワーマネージメント機能について

ここでは、次のような機能の設定を行います。

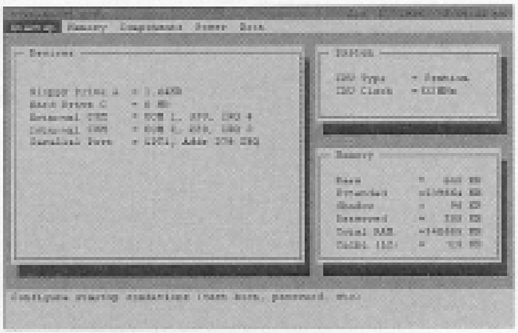
- パワーセービング機能を設定する(➔92ページ)
- LCDカバーを閉じたときの動作を設定する(➔94ページ)
- サスペンド機能を設定する(➔95ページ)

⚠注意 パワーマネージメント機能を設定した後、設定した内容を有効にするためにコンピュータを再起動してください。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

パワーマネージメント機能に関する設定は、システムコンフィグレーションメニューの【Power】から選びます。システムコンフィグレーションメニューの操作方法は、81ページを参照してください。

《項目の選択・設定の方法は》



(画面の設定値は例です)

- メインメニューを選択するには……………………[Alt]キーを押してから、[◀][▶]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- サブメニューを選択するには……………………[▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- 項目を移動するには……………………[Tab]キーを押します。
- メニュー項目や設定を確定するには……………………[↵]キーを押します。
- 設定を変更せずに元に戻るときは……………………[Esc]キーを押します
- サブメニュー内で有効・無効を設定するには…[　　]キーでチェックマーク(✓)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- 項目内で有効・無効を設定するには……………………[▲][▼]キーで移動し、[　　]キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- 機能を使用しない設定にするには……………………【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- 終了するには……………………メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、[Esc]キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。
もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてパワーマネージメントが終了します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して[↵]を押し、もう一度[↵]を押すと変更された設定が記憶されずにパワーマネージメントを終了します。

バッテリ使用時のバッテリ使用時間とCPU処理のどちらを優先するか設定する

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

●**バッテリ使用時間とCPU処理のどちらを優先するかを設定する**

【Power】-【Maximum Battery Life】	バッテリの使用時間を最優先
【Power】-【Good Battery Life】	バッテリの使用時間を優先
【Power】-【Good Performance】	CPUの処理を優先
【Power】-【Maximum Performance】	CPUの処理を最優先・バッテリの使用時間は最短

4項目のうちいずれかを有効(✓)に設定します。

サスペンド時にPCカードスロットに電源を供給するか設定する

●サスペンド時にPCカードスロットに電源を供給するか設定する

【Power】-【PCMCIA Power(Suspend)】

有効(✓)にすると、サスペンド時にPCカードスロットへの電源の供給します。

バッテリまたはACアダプタ使用時の電源使用環境を設定する

ディスプレイの表示を自動的に消す、ハードディスクの電源を自動的にオフするなど、電源の消費を抑える機能を、バッテリ使用時またはACアダプタ使用時ごとに個別に設定できます。

バッテリ使用時の電源環境を設定するときは、【Power】メニューから【User Setting Battery】を選び設定を行います。ACアダプタ使用時の環境を設定するときは【Power】メニューから【User Setting AC】を選び設定を行います。

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

【Power】-【User Setting Battery】	バッテリ使用時の電源使用環境を設定
【Power】-【User Setting AC】	ACアダプタ使用時の電源使用環境を設定

この項の設定項目についてはバッテリ使用時、ACアダプタ使用時で個別に設定します。

● **ディスプレイ表示を消す**

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「Video Timeout」
一定時間キーボードからの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD・CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から10分の間とAlways On(動作しない)で設定します。
Tabキーで「Video Timeout」にカーソルを合わせ、[ ]キーを押して表示されるメニューから設定時間を選びます。また、▲▼キーを使って設定時間を選ぶこともできます。

● **ハードディスクの電源をOFFにする**

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「Disk Timeout」
一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクの電源をOFFにする機能です。このときハードディスクの電源は切れますが、システムの動作は継続しています。時間は15秒から4分の間とAlways On(動作しない)で設定します。

● **CPU処理の優先度を設定する**

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「CPU Throttle」
「Maximum Power Saving」(パワーセーブ最優先)、「Good Power Saving」(パワーセーブ優先)、「Good Performance」(CPUの処理能力を優先)、「Maximum Performance」(CPUの処理能力を最優先)から選びます。

● **グローバルスタンバイにする**

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「Standby Timeout」
システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から10分の間とAlways On(動作しない)で設定します。キーボードを押したりグライドポイントを操作するとグローバルスタンバイは解除されます。
Tabキーで「Standby Timeout」にカーソルを合わせ、[ ]キーを押して表示されるメニューから設定時間を選びます。また、▲▼キーを使って設定時間を選ぶこともできます。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行なうようなプログラムを実行している場合にグローバルスタンバイの設定を行なっていると、稼動状態に検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、無効(Always On)に設定してください。

Note　ネットワークを使っている場合

【Power】の設定項目はすべて「Always On」に設定しておくことをおすすめします。

● オートサスペンドにする

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「Suspend Timeout」

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は2分から20分の間とAlways On(動作しない)で設定します。グローバルスタンバイよりも消費電力は少なくなります。

Tabキーで「Suspend Timeout」にカーソルを合わせ、[ ]キーを押して表示されるメニューから設定時間を選びます。また、▲▼キーを使って設定時間を選ぶこともできます。

● ディスプレイの輝度を設定する

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「BRIGHTNESS」

ディスプレイの最大輝度をHigh、Mediam、Lowのいずれかから選びます。

● LCDカバーを閉じたときの動作を設定する

【Power】-【User Setting Battery(AC)】-「Lid Close」

LCDカバーを閉じたときに、サスペンド機能を働かせるか(Suspend)、グローバルスタンバイ状態にするか(Standby)、ディスプレイのバックライトを消すだけなのか(Backlight off)を選びます。

⚠注意 **LCDカバーを閉じた状態で使用するときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところでご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合、過熱保護装置が機能し、システムの動作が遅くなります。この場合、電源をOFFにして温度が低下するまで使用しないでください。また、LCDカバーを閉じたまま使用した後、温度が下がらないうちにLCDカバーを開けて使用するとLCD上にムラが現れる場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、ムラは無くなります。**

パワーマネージメント機能のその他の設定

●ローバッテリ状態のときビープ音を鳴らすか設定する

【Miscellaneous】-【Low Battery Beep】

バッテリがローバッテリ状態のとき、警告音を鳴らすか、鳴らさないかの設定を行ないます。有効（✓）にすると警告音が鳴ります。

●Wake Up Alarmを設定する

【Miscellaneous】-【Wake Up Alarm】

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。アラームレジュームを行なうように設定するとアラーム時刻設定を行なうための表示が出ますので、希望の時刻を入力してください。

サスペンド機能の設定を行なう

● **サスペンド機能を電源スイッチで実行させるかどうか設定する**

【Startup】-【Power Switch】

電源スイッチを押したときにサスペンド機能を実行させる場合は「Suspend」を、電源のON/OFFのみ機能させる場合は「ON/OFF」を選びます。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Power	Maximum Battery Life	無効	
	Good Battery Life	無効	
	Good Performance	無効	
	MaximumPerformance	無効	処理速度を最優先
	User Setting AC		ACアダプタ使用時の設定
	・Video Timeout	Always On	表示は常にOn
	・Disk Timeout	Always On	ハードディスクは常に電源オン
	・Cpu Throttle	Maximum Performance	処理を最優先
	・Standby Timeout	Always On	グローバルスタンバイは使用しない
	・Suspend Timeout	Always On	サスペンドは使用しない
	・BRIGHTNESS	High	LCDの最大輝度High
	・Lid Close	Suspend	ディスプレイを閉じるとサスペンド
	User Setting Battery		バッテリー使用時の設定
	・Video Timeout	2 min	6分で動作停止
	・Disk Timeout	15 sec	ハードディスクは常に電源オン
	・Cpu Throttle	Good Performance	処理を優先
	・Standby Timeout	2 min	グローバルスタンバイは使用しない
	・Suspend Timeout	12 min	サスペンドは使用しない
	・BRIGHTNESS	Medium	LCDの最大輝度Medium
	・Lid Close	Suspend	ディスプレイを閉じるとサスペンド
	PCMCIA Power	無効	PCカードスロットは常に電源OFF
Miscellaneous	Low Battery Beep	有効	ローバッテリ時に警告音を鳴らす
	Wake Up Alarm	Disabled	ウェークアップアラーム禁止

3 画面の解像度などを変える

本製品には、高解像度TFT(R5P133MT)/DSTN(R5P150MX)カラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windows®95では最大800×600ドット、65,536色で表示することができます。他の解像度・色数・フォントサイズで表示させるときは、「画面のプロパティ」で設定を変更します。

出荷状態の設定

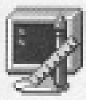
製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	:本体LCD表示のみ
デスクトップ領域(解像度)	:800×600ピクセル
カラーパレット（色数）	:High Color(16ビット)・・・65,536色
フォントサイズ	:小さいフォント・・・16ドット

設定を変更する

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。



画面

Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、Fn+F10を押すと(LCD→CRT→同時表示)の順で切り替わります。常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行ないます。(➔85ページ)

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

デスクトップ領域(解像度)は、本体LCD表示の場合「800×600ピクセル」「640×480ピクセル」が設定できます。(➔85ページ)



① **カラーパレット　表示する色数を選びます**
16色
256色
High Color(16ビット)・・・65,536色

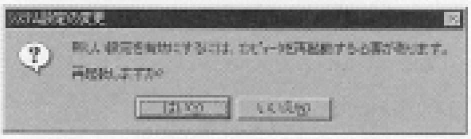
② **デスクトップ領域　デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。**
640×480ピクセル
800×600ピクセル

③ **フォントサイズ　表示するフォントサイズを選びます。**
小さいフォント
大きいフォント(640×480ピクセルの場合は選択できません)

4 [OK]をクリックします。

カラーパレット・フォントサイズ・ディスプレイの種類を変更した場合

Windows®95を再起動する必要があります。[はい]をクリックします。



デスクトップ領域(解像度)のみ変更した場合

サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると数秒後に変更されます。



▼

変更したサイズを保存するときは[はい]をクリックします。



Note　外部ディスプレイに表示させるときは

Windows®95をいったん終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行なってからWindows®95を起動します。(➔85ページ)

第6章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 14ページ)

⚠注意 キーボード、およびマウスからの入力を一切受けつけない状態（ハングアップ状態といいます）になったときには、Ctrl+Alt+Deleteキーでソフトウェアリセットを行ってみてください。もし、電源を立ち上げ直しても復帰できないときは、テクニカルサポートセンタまでご連絡ください。

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
輝度が正しく調整されていない。	輝度調整ノブで見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	コンピュータの電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブがブートデバイスに設定されていて、かつ、フロッピーディスクがドライブにセットされている。	フロッピーディスクを出して、再度電源を入れ直してください。
ハードディスクがしっかりと接続されていない。	ハードディスクをラッチがかかるまで押し込んでください。

●Windows®95が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行なわれるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。(➔ 89ページ)
Windows®95のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows®95が正常に終了できていません。	「Starting Windows95」と表示されている間に[F8]キーを押してすぐに離すと起動メニューが表示されます。ここで、「Safeモード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®95起動時のトラブルの詳細についてはWindows®95のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➔ 45ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのまま読むことができます。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●XGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。また、サスペンドしている場合には電源スイッチを押してください。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使わないときは、システムコンフィグレーションの設定を変更してください。(➔ 90ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。
プリンタポートの設定が正しくない。	EPP、ECP、PS/2の各モードで印刷を試してください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。
キーボード/マウス アダプタを使用してマウスと外部キーボードを接続している。	マウスと外部キーボードを同時に使用する場合は、ポートルプリケータ(オプション)をご使用ください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 51ページ)

●音が鳴らない

考えられる原因	対処方法
本体のボリュームノブがしぼられている。	ボリュームノブで音量を調節してください。
Windows®95のミキサーでミュートがチェックされている。	ミュートのチェックをはずしてください。
サウンドドライバが正常でない。	サウンドドライバを再インストールしてください。

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 34ページ)

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
システムコンフィグレーションメニューの設定が正しくない。	システムコンフィグレーションを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 82ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 28ページ)

●CPUクロックスピードがLOWスピードになる

考えられる原因	対処方法
CPUがオーバーヒートしている。	LOWスピードのまま使用してください。一定の温度まで下がると、自動的に通常のスピードに戻ります。
グローバルスタンバイモードに入っている。	グローバルスタンバイモードの状態に入ると、CPUのスピードが自動的に落ちます。グローバルスタンバイモードが使用する環境に適さない場合は、システムコンフィグレーションメニューの「Standby Timeout」の項目に対し、チェックを外してください。(➔ 93ページ)

⚠注意　ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

Appendix

本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様などについて記載しています。必要に応じてお読みください。

1 フロッピーディスクドライブからのブート

WinBook Quattro/Rの出荷設定の状態では、フロッピーディスクドライブにディスクをセットしていても、ハードディスクからブートするようになっています。フロッピーディスクドライブからブートできるように設定を変更したい場合には、システムコンフィグレーションメニューを呼び出し（本体を起動し、メモリーテストが終わったときに、Fn+ESCを押すと呼び出されます）、「Startup」の項目の「Boot Device」の設定を「FD A/HD C」に設定してください。

2 Windows®95でのパワーマネージメント機能の使用

Windows®95では、自動的にCPUのクロックスピードをコントロールして電力を節約するAPMという機能が働いており、これにより長時間のバッテリ使用ができるようになっています。
さらに、バッテリ使用時間を長くしたい場合には、「グローバルスタンバイ」と「オートサスペンド」の機能を利用する必要があります（→93、94ページ）。
しかし、Windows®95のCD-ROMオートスタートの機能が有効になっていると、上記のスタンバイ機能を利用できません。CD-ROMオートスタートの機能を禁止するには次の手順で設定を変更してください。

1. ［スタート］ボタンをクリックし、【設定】－【コントロールパネル】を選びます。
2. コントロールパネルの中の［システム］アイコンをダブルクリックし、［デバイスマネージャー］を選びます。
3. コンピュータの項目の中の「CD-ROM」ダブルクリックします。
4. 「TORISAN CD-ROM CDR_N110」をダブルクリックします。
5. 「設定」をクリックします。
6. オプションの中の自動挿入の項目の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを消し、［OK］をクリックします。
7. デバイスマネージャーが表示されるので、［OK］をクリックします。
8. 「再起動しますか？」と表示されるので、［はい(Y)］をクリックします。

3 赤外線通信について

WinBook Quattro/Rは赤外線通信の手段として、次の2つの手段を用意しています。これら2つの手段の特徴を示します。

- Windows®95のケーブル接続
- TranXit2

Windows®95のケーブル接続

- 接続先のノートブックコンピュータをドライブとして割り当てて、任意のアプリケーションよりアクセスすることができる。
- 通信相手のノートブックコンピュータのWindows®95のバージョンが「4.00.950a」または「4.00.950b」である必要がある（確認方法は下記参照）。

TranXit2

- Windows®95のバージョンに関係なく、双方向のファイル転送ができる。
- 接続先のノートブックコンピュータにインストールされているOS(オペレーティングシステム)がWindows3.1であってもTranXitがインストールされていれば赤外線通信ができる。
- TranXit2（または、TranXit）は現在市販されているほとんどのノートブックコンピュータにプリインストールされている。

⚠注意 Windows®95のケーブル接続で赤外線通信を行うには、通信相手のノートブックコンピュータのWindows®95のバージョンが「4.00.950a」または「4.00.950b」である必要があります。バージョンの情報は、コントロールパネルより、「システム」をダブルクリックして、「情報」を選択すると表示されます。バージョンが「4.00.950」であった場合には、マイクロソフト社から「Windows®95 Service Pack 1」を入手して、Windows®95のアップデートを行う必要があります。

「Windows®95 Service Pack 1」の入手先

・インターネット ホームページ（http://www.microsoft.co.jp）
・パソコン通信
　The Microsoft Network
　Nifty-Serve
　PC-VAN
　ASCIInet
・FAX BOXサービス
　プッシュ回線のFAXより03-5454-8100に電話をかけ、ガイダンスが流れたら"4#"を、BOX番号の入力を促されたら"033000#"を押す。
　また、「Windows®95 Service Pack 1」が入手できない場合には、TranXit2をご利用ください。TranXit2（または、TranXit）は現在市販されているほとんどのノートブックコンピュータにプリインストールされています。

⚠注意 **Windows®95のケーブル接続の設定方法については、次の手順でヘルプを開いて確認してください。**

Windows®95のケーブル接続の設定方法

1. ［スタート］ボタンをクリックし、［ヘルプ(H)］を選びます。
2. 「探したい語句の最初の何文字かを入力してください(T)」と表示されるので、「ケーブル接続」と入力して「Enter」を押します。
3. ケーブル接続に関するヘルプの項目が表示されるので、みたい項目をクリックします。

⚠注意 **コントロールパネルの中にある「赤外線モニター」は、Windows®95のケーブル接続を使用するときには有効に、TranXit2を使用するときには無効にしておく必要があります。次に、この設定の変更方法を示します。**

1. ［コントロールパネル］の「赤外線モニター」アイコンをダブルクリックして、「赤外線モニター」を起動します。
2. 「オプション」の欄を選択し、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする(E)」の項目のチェックマークをクリックして、使用目的に合わせて設定を変更してください。
3. ［OK］をクリックして、赤外線モニターを閉じます。

4 索引

Appendix

し

す

せ

そ

た

て

と

な

に

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

む

め

も

ら

り

れ

ろ

A

B

C

D

E

F

5 製品の仕様

本体システム仕様

モデル		R5P133MT	R5P150MX
CPU		MMX Pentium 133MHz	MMX Pentium 150MHz
システムRAM	標準	16MB	
	最大	80MB	
BIOSROM		256KB フラッシュROM	
ビデオメモリ		1MB	
ハードディスク		1.35GB	1.44GB
フロッピーディスク		3.5インチ3モード 1.44MB/1.2MB/720KB	
CD-ROMドライブ		12cm/8cm 平均10倍速	
ビデオ	LCD	800×600ドット	
		TFTカラー64K(65,536)色 0.28ピッチ RGB一組 12.1インチ冷陰極管バックライト	DSTNカラー64K(65,536)色 0.28ピッチ RGB一組 12.1インチ冷陰極管バックライト
	CRT	最大1024×768ドット カラー256色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能 ※DOSモード640×480ドット	
インターフェース		シリアルポート(16550AタイプUART互換) IrDAポート 外部CRTポート 外部キーボード／マウスポート プリンタポート PCMCIA V2.1 ICカードスロット(TYPEⅡ×1 TYPEⅢ×1) LINE IN端子 ／ MIC IN端子 ／ HEAD PHONE端子	
内蔵キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレム型	
	キー数	86キー(106キーエミュレーション)	
内蔵ポインティングデバイス		キーボード組み込み型グライドポインタ2ボタン式	
内蔵サウンド		ステレオデジタルサウンドFM音源 Sound Blaster Pro互換	
内蔵スピーカ		ステレオ	
内蔵マイク		モノラルマイク内蔵	
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 （ユーザ選択可能）	
カレンダ・時計・設定		バックアップ電池によるバックアップ	
電源	ACアダプタ	入力100V~240V 50・60Hz	
		出力15V 1800mA、18V 1000mA	
	電池	ニッケル水素電池 9.6V 3300mA・h	
寸法		296(W)×225(D)×52(H)mm	
質量		約3.1Kg（バッテリパック装着時）	

システムメモリマップ

アドレス	領域
FFFFFFFFH	システムBIOS領域
FFFEFFFFH	予約領域
03000000H 02FFFFFFH	拡張メモリカード増設領域
01000000H 00FFFFFFH	標準実装16MB領域
00100000H 000FFFFFH	システムBIOS領域
000E0000H 000DFFFFH	アッパーメモリ予約エリア
000D0000H 000CFFFFH	PnPBIOS
000CA000H 000C9FFFH	VGA BIOS
000C0000H 0000BFFFFH	VGAディスプレイメモリ
0000A0000H 00009FFFFH	メインメモリ640Kバイト
000000000H	

⚠注意 ・上記のハードウェア仕様は、オペレーティングシステム(OS)、アプリケーションソフトウェアによっては、サポートしない場合があります。

システムI/Oマップ

アドレス	割り当て
03F8H~03FFH	COM1シリアルポート(シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E8H~03EFH	COM3シリアルポート
03E0H~03E3H	PCMCIAコントローラ
03C0H~03DFH	LPT3プリンタポート
03B0H~03BFH	予約領域
0380H~03AFH	LPT1プリンタポート(プリンタポート)
0370H~037FH	MiDiポートおよび予約領域
0300H~036FH	PCMCIAのCOM2用として予約
02F0H~02FFH	予約領域
0280H~02EFH	LPT2プリンタポート
0270H~027FH	予約領域
0230H~026FH	サウンドチップ
0220H~022FH	予約領域
0200H~021FH	ハードディスク
01F0H~01FFH	予約領域
0100H~01EFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00F0H~00FFH	予約領域
00E0H~00EFH	DMAコントローラ2
00C0H~00DFH	割り込みコントローラ2
00A0H~00BFH	DMAページレジスタ
0080H~009FH	リアルタイムクロック・カレンダ・その他
0070H~007FH	キーボードコントローラ
0060H~006FH	予約領域
0050H~0053H	タイマーコントローラ
0040H~004FH	予約領域
0030H~003FH	割り込みコントローラ1
0020H~002FH	予約領域
0010H~001FH	DMAコントローラ1
0000H~000FH	

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

WinBook Quattro/R
ユーザーズガイド

1997年4月　初版
株式会社ソーテック

SOTEC

970623-01-800